ONKYO®

INTEC
COMPONENT WORLD

ミニディスクレコーダー

MD-101A

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

はじめに

操作準備について

MDを操作する

その他

MDLP

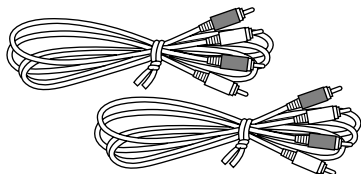
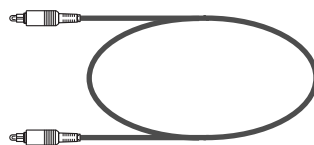
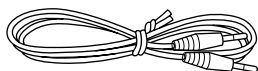
特長

■ 155mm幅のきわめてコンパクトな単品シリーズ
■ 高速演算ATRAC搭載
■ ダイレクトデジタルパス採用
■ 24ビットプロセッシング
■ デジタル録音ボリューム
■ DLA Link機能
■ 長時間録音モード（2倍／4倍）MDLP対応
■ CD-MDワンタッチダビング機能
■ サンプリングレートコンバーター&2系統光デジタル入力
■ シグナルシンクロ録音機能
■ カンタンネーム機能

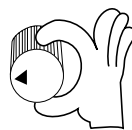
本機は、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

付属品

■ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（　）内の数字は数量を表しています。

● オーディオ用ピンコード（2）

● オーディオ用光デジタルケーブル（1）

● RIケーブル（1）

● 取扱説明書（本書1）
● 保証書（1）

♪ 音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

●本機を分解、改造しないでください。火災、感電の原因となります。

■100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。

●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠警告

■水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■中に物を入れない

●本機の通風孔、ミニディスクの挿入口などから金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものをのせてしまうことがあります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

■落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

●本機の上に他のオーディオ機器をのせたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

●本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■使用上の注意

指をはさまれないように注意

●お子様がミニディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

●ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

●レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。

●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス十とマイナスーの向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災･けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。

●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用などについても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

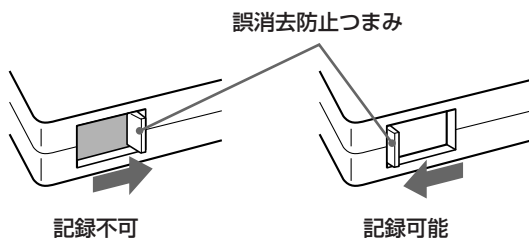
●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

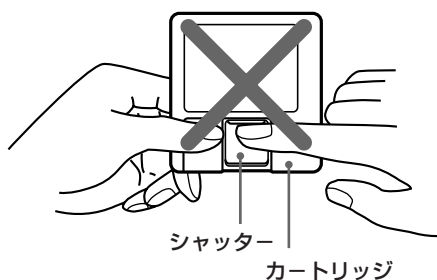
●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

結露について

本機を冷えた所から暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは正常に働かないばかりではなく、ディスクや部品も痛めてしまいます。結露しているおそれがある場合は、本機の電源を入れて約1時間放置してからご使用ください。また、本機をご使用にならないときは、ディスクを取り出しておくことをおすすめします。

ミニディスク（MD）について

MD には市販の再生専用のミュージック MD と、録音用の 2 種類があります。
録音用のMDには録音した内容を誤って消さないための誤消去防止つまみがあります。録音を禁止するときは、MDの誤消去防止つまみをずらして、図のように孔が開いた状態にします（記録不可状態）。
再び録音するときは、つまみを元に戻します。

MDはカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えます。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように、次のことにご注意ください。

●内部のディスクに直接触れないでください
シャッターを手で開けないでください。無理に開けるとこわれます。

●置き場所について
直射日光が当たる所など高温の場所や、湿度の高い場所には置かないでください。

●長時間使用しないときは
MDが本機の中に入っているときは、シャッターが開いた状態になっています。長時間使用しないときは、内部のディスクにほこりがつくのを防ぐため、MDを本機から取り出しておいてください。

●定期的にお手入れを
カートリッジ表面についたほこりやごみを乾いた布でふき取ってください。

リモコンの使いかた

本機にリモコンは付属していませんが、INTEC155シリーズのR-801A（チューナーアンプ）に付属のリモコンRC-466S、または別売のMD専用リモコンRC-410MDを使って本機を操作することができます。

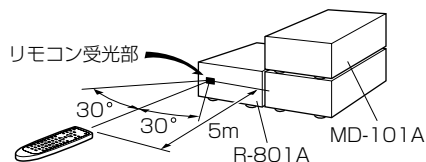
■R-801Aに付属のリモコン(RC-466S)で本機を操作

- 本機を操作できる各ボタンについては、13ページをご覧ください。
- 詳細についてはR-801Aの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

RI(リモート)端子の接続を確実に行ってください。接続が不完全ですとシステムとしての操作ができません。また、R-801Aのタイマー機能を使用することもできません。

リモコンの使いかた

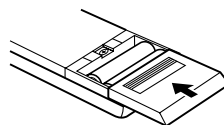
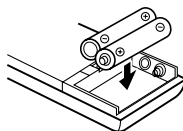
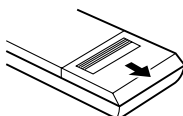
リモコンをR-801A（チューナーアンプ）のリモコン受光部に向けて操作してください。

■別売のMD専用リモコン(RC-410MD)で本機を操作

本機を操作できる各ボタンについては、14ページをご覧ください。

乾電池の入れかたと交換のしかた

①カバーを矢印の方向にずらして外す

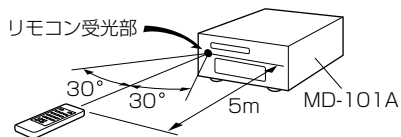
②中の極性にしたがって付属の電池2個を＋（プラス）、－（マイナス）を間違えないように入れる

③カバーを戻す

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池(単３形)と交換してください。

ご注意

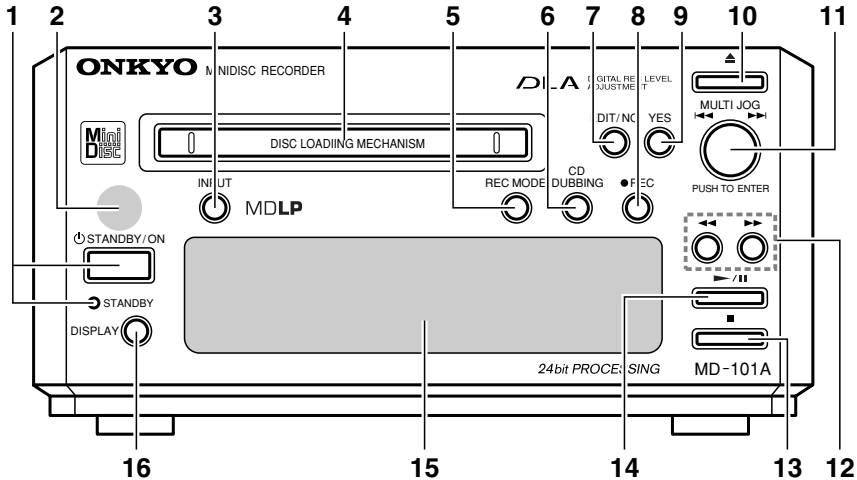
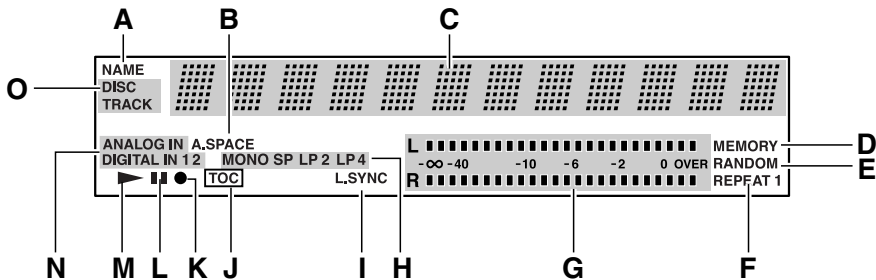
- 電池の極性(＋、－)は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因になります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

各部の名称と働き

■前面パネル

■表示部

■前面パネル　[　]内の数字は、参照ページを示しています。

1 電源ボタン(STANDBY/ON)とスタンバイインジケーター〔19〕
押すと電源が入りスタンバイインジケーターが消灯します。

2 リモコン受光部〔10〕

3 入力切り換えボタン(INPUT)〔33〕
入力信号を切り換えます。

4 ディスク挿入口〔19〕

5 録音モード切り換えボタン(REC MODE)〔34〕
録音設定時に録音モードの中から好みのモードを選択できます。

6 CDダビングボタン(CD DUBBING)〔35〕
CDダビングを始めます。
(INTEC155シリーズのCDプレーヤーと接続している場合)

7 エディット／ノーボタン(EDIT/NO)〔35〕
録音、再生などの各設定や各編集操作の内容を選びます。設定中は表示された内容を取り消すときに押します。

8 録音ボタン(●REC)〔38〕
アナログ録音／デジタル録音時、録音待機状態にします。

各部の名称と働き

9 イエスボタン(YES)〔63〕
録音、再生などの各設定や各編集操作で表示どおりに決定するときに押します。

10 イジェクトボタン(▲)〔21〕
ディスクを取り出すときに押します。

11 マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)〔23、52、60〕
停止中、再生中に回すと、前後の曲番の頭出しをします。停止中に押すと再生が始まり、再生中に押すと曲番が1つ進みます。
編集の種類を選んだり、ディスク名、曲名入力時に文字を選びます。
押すと各設定を確定します。

12 早戻し／早送りボタン(◀◀／▶▶)〔24、62〕
再生中の曲を前後に早戻し／早送りします。
ネーム入力時、カーソル移動に使います。

13 ストップボタン(■)〔21〕
再生、録音を停止します。

14 プレイ／ポーズボタン(▶/❚❚)〔19、21〕
再生やアナログ録音／デジタル録音を始めます。再生中に押すと一時停止状態になります。もう一度押すと再生状態に戻ります。

15 表示部

A ネーム表示(NAME)[31]
ディスク名、曲名を表示している時に点灯します。

B オートスペース表示(A.SPACE)[30]
オートスペースをONに設定している時に点灯します。

C 多目的表示 [31]
曲番(トラックナンバー)、ネーム、時間表示、録音、編集に関する内容を表示します。

D メモリー表示(MEMORY)[26]
メモリー再生をしている時に点灯します。

E ランダム表示(RANDOM)[25]
ランダム再生をしている時に点灯します。

F リピート/リピート1表示(REPEAT/REPEAT 1)[28]
全曲リピート再生、1曲リピート再生をしている時に点灯します。

G ピークレベル表示 [39]
再生時や録音時のレベルを表示します。

H レックモード表示(REC MODE)[34](MONO/SP/LP2/LP4)
再生中、一時停止中はそのトラックの録音時の録音モードを表示します。
録音中、録音一時停止中、停止中、イジェクト中は、その録音モードを表示します。

I レベルシンク表示(L.SYNC)[44]
レベルシンク(録音中に自動的に曲番をつける)をONに設定している時に点灯します。

J トック表示(TOC)[40、43、52]
録音や編集操作が完了した時に点灯します。

K レック表示(●)[35]
録音中、録音待機中に点灯します。

L ポーズ表示(❚❚)[21]
一時停止中、録音待機中に点灯します。

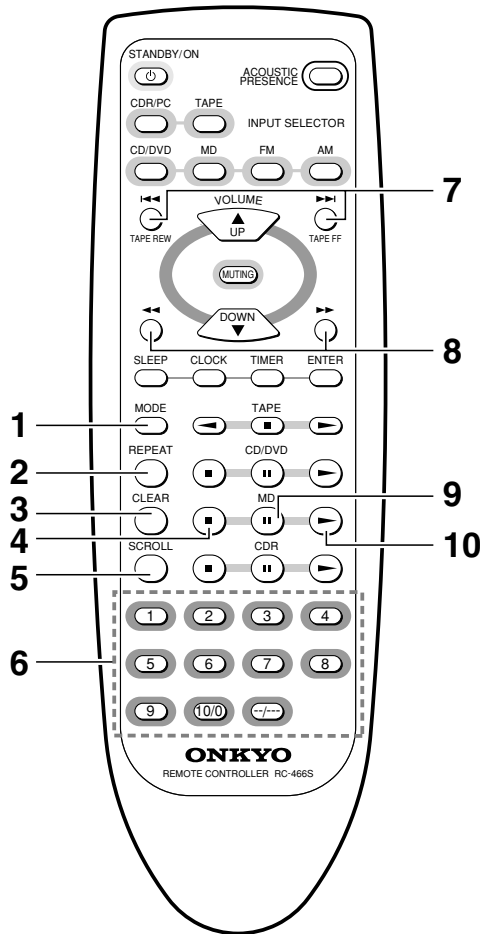
M プレイ表示(▶)[19]
再生、録音中に点灯します。

N インプット表示(INPUT)[33]
(ANALOG IN/DIGITAL IN 1/DIGITAL IN 2)
入力切り換えボタン(INPUT)を押すたびに切り換わります。

O ディスク/トラック表示(DISC/TRACK)[31]
ディスク情報、トラック情報を表示している時にそれぞれ点灯します。

16 ディスプレイボタン(DISPLAY)〔31、61〕
押すたびに表示部の表示が切り換わります。
ネーム入力時、文字の種類を選びます。

［　］内の数字は、参照ページを示しています。

■INTEC155シリーズのR-801Aに付属のリモコン（RC-466S）

1 **モードボタン（MODE）〔25、26〕**
ランダムモード、メモリーモードを選択できます。

2 **リピートボタン（REPEAT）〔28〕**
ディスク全体、または1曲をくり返し再生します。

3 **クリアボタン（CLEAR）〔27〕**
メモリー内容を取り消すときに押します。（停止中に押します。）

4 **ストップボタン（■）〔21〕**

5 **スクロールボタン（SCROLL）〔19〕**
ディスク名、曲名をスクロールします。

6 **数字ボタン〔23、27〕**
押したボタンの曲から再生を始めます。
メモリー再生するときやメモリーしたい曲を選ぶときにも押します。

7 **⏮／⏭ボタン〔23〕**
⏭次の曲を頭出しします。
⏮再生中の曲または前の曲の頭出しをします。

8 **◀◀／▶▶ボタン〔24、62〕**
▶▶ 再生中の曲を早送りします。
◀◀ 再生中の曲を早戻しします。

9 **ポーズボタン（❚❚）〔21〕**

10 **プレイボタン（▶）〔19〕**

各部の名称と働き

［　］内の数字は、参照ページを示しています。

■別売のMD専用リモコン（RC-410MD）

1 メモリーボタン（MEMORY）〔26〕
再生する曲の順番を記憶します。

2 パワーボタン（POWER）〔19〕
押すと電源が入り、スタンバイインジケーターが消灯します。

3 ランダムボタン（RANDOM）〔25〕
ディスクを順不同に再生します。

4 コンティニューボタン（CONTINUE）〔25〕
メモリーモード、ランダムモードを取り消すときに押します。停止中に押します。

5 録音ボタン（●REC）〔38〕

6 イジェクトボタン（EJECT）〔21〕

7 アルファベット／記号／数字（1～10）ボタン〔62〕
ディスク名や曲名を入力するときに押します。
〔0〕は10ボタンで入力します。

8 数字ボタン〔23、27〕
押したボタンの曲から再生を始めます。
メモリー再生するときにも押します。

9 リピートボタン（REPEAT）〔28〕
ディスク全体、または1曲をくり返し再生します。

10 A-Bボタン（A-B）〔29〕
聞きたい部分だけをくり返します。

11 オートスペースボタン（A.SPACE）〔30〕
再生時に曲と曲の間に約3秒の無音部を作ります。

12 ミュージックスキャンボタン（M.SCAN）〔23〕
曲の頭だけを8秒間づつ再生します。

13 クリアボタン（CLEAR）〔27、62〕
メモリー内容を取り消すときに押します。
（停止中に押します）
ディスク名、曲名の文字を削除するときにも押します。

14 エンターボタン（ENTER）〔62〕
ネーム入力時、⏮、⏭ボタンで文字を選んだ時に文字を確定します。

15 ネームボタン（NAME）〔60、63〕
ディスク名、曲名入力モードにします。また、入力モードを終了します。
ディスク名、曲名入力時に文字を確定します。

16 ディスプレイボタン（DISPLAY）〔31、61〕
押すたびに表示部の表示が切り換わります。
ネーム入力時、文字の種類を選びます。

17 スクロールボタン（SCROLL）〔19〕
ディスク名、曲名をスクロールします。

ＭＤ操作ボタンについては、前ページのリモコン（RC-466S）の**4**、**7**～**10**をご覧ください。

接続

■INTEC155シリーズ R-801A(チューナーアンプ)、C-701A(CDプレーヤー)、CDR-201A(CDレコーダー)と接続する場合

システム接続のしかた
(INTEC155シリーズの接続)

R-801Aの取扱説明書をご覧ください。

INTEC155シリーズの組み合わせでご使用になると、次のシステム機能を使うことができます。

オートパワーオン
本機の電源を入れると、チューナーアンプの電源が自動的に入ります。また、本機を使用しないときは、本機のみ電源を切ることができます。

ダイレクトチェンジ
本機を再生するとチューナーアンプの入力がMDに切り換わります。

リモコン操作
R-801Aに付属のリモコンで本機を操作することができます。

詳しくはR-801Aの取扱説明書をご覧ください。

タイマー操作
タイマー再生、タイマー録音ができます。

詳しくはR-801Aの取扱説明書をご覧ください。

CDダビング
CDプレーヤーから本機への録音をワンタッチで行える機能です。

詳しくは本取扱説明書32～35ページをご覧ください。

CDシンクロ録音
本機を録音待機状態にしておけばCDプレーヤーのプレイ操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくは本取扱説明書45ページをご覧ください。

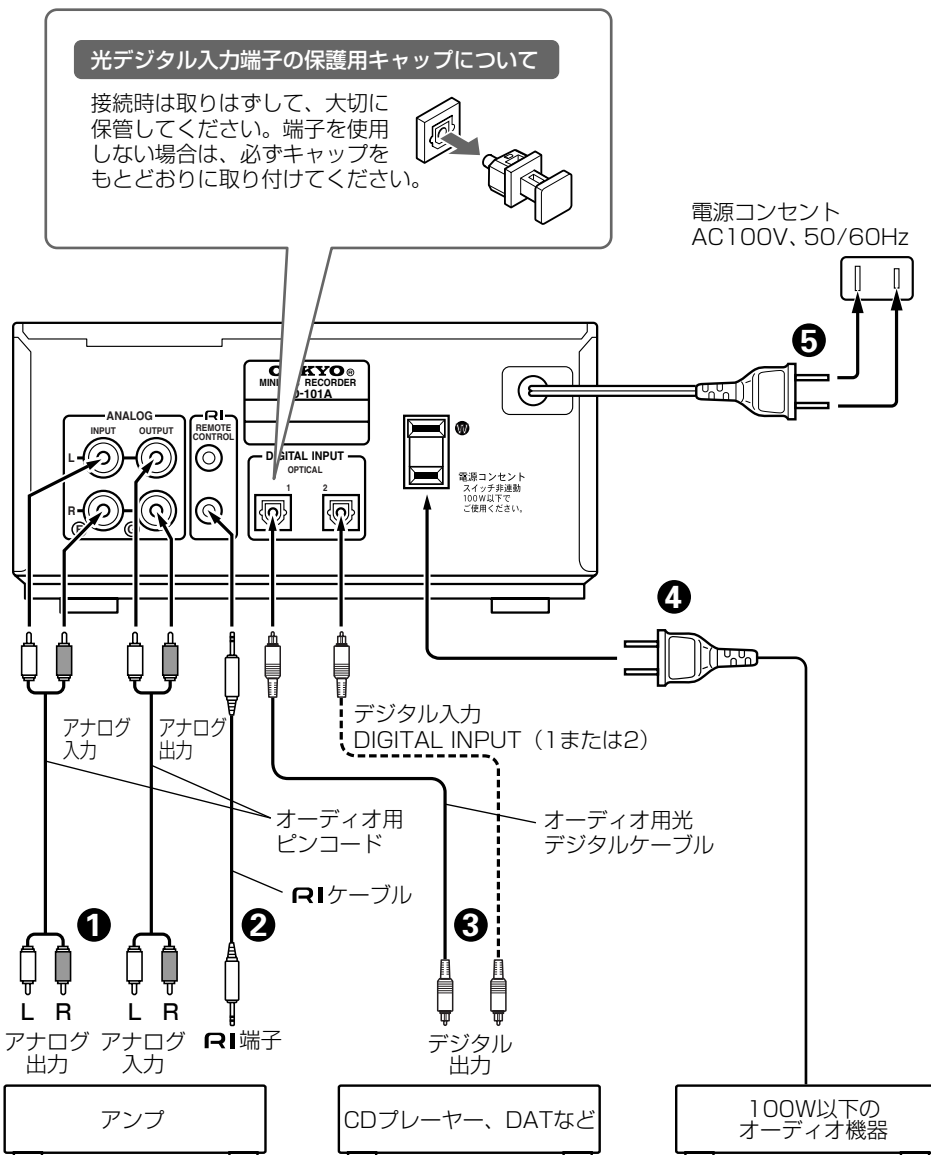
CDレコーダーからのシンクロ録音
(アナログ入力録音のみ)
本機を録音待機状態にしておけばCDレコーダーのプレイ操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくは本取扱説明書46ページをご覧ください。

ご注意
- 接続がまちがっていると各機能は働きません。R-801Aの取扱説明書の「接続」の項を参照しながら、確実に接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

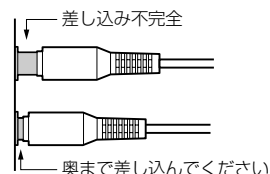
■ 他の機器と接続する場合

本機は熱に弱い部品を使用していますので、チューナーアンプ(またはアンプ)やチューナーの上には置かないでください。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

❶チューナーアンプ(またはアンプ)との接続

チューナーアンプ(またはアンプ)のMD端子に本機を接続してください。

- 付属のオーディオ用ピンコード(赤、白プラグ付きピンコード)を使用し、赤いプラグは(R)側に、白いプラグは(L)側に接続します。

他機L端子へ...白　　白...本機L端子へ
他機R端子へ...赤　　赤...本機R端子へ

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねると、音質低下の原因となります。

❷RIケーブルの接続

- RI端子付きオンキヨー製品と、本機に付属のRIケーブルを使って、RI端子どうしを接続してください。
- RI端子は、RI端子付きオンキヨー製チューナーアンプ(またはアンプ)と組み合わせた場合のみ使用できます。RI端子付きオンキヨー製品以外とは接続しないでください。故障の原因となります。
- RI端子の上下2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

❸デジタル入力端子(DIGITAL INPUT)の接続

デジタル出力端子(OPTICAL)付きのCD(コンパクトディスクプレーヤー)やDAT(デジタルオーディオテープデッキ)などと接続してデジタル入力録音ができます。
オーディオ用光デジタルケーブルでDIGITAL INPUT1または2端子に接続してください。
また、この端子は、デジタル出力端子付きアンプとも接続できます。

ご注意

- 光デジタル入力端子には、保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップは必ずもとどおりに取り付けておいてください。
- 光デジタル入力端子を接続せずにデジタル入力録音を行うと「D.In Unlock」が表示され、録音できません。

❹本機の電源コンセントについて

オーディオ機器の電源プラグを差し込むことができます。

ご注意

- 本機のスイッチ非連動コンセント(容量合計100W以下)は常時通電しています。
  容量を越える機器は絶対に接続しないでください
- 他機の電源コードの白いラインなど目印側を本機の電源コンセントの広い方(Ⓦマーク側)に合わせてください。

❺電源コードをつなぐ

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。 "STANDBY" インジケーターが点灯します。

システム操作について

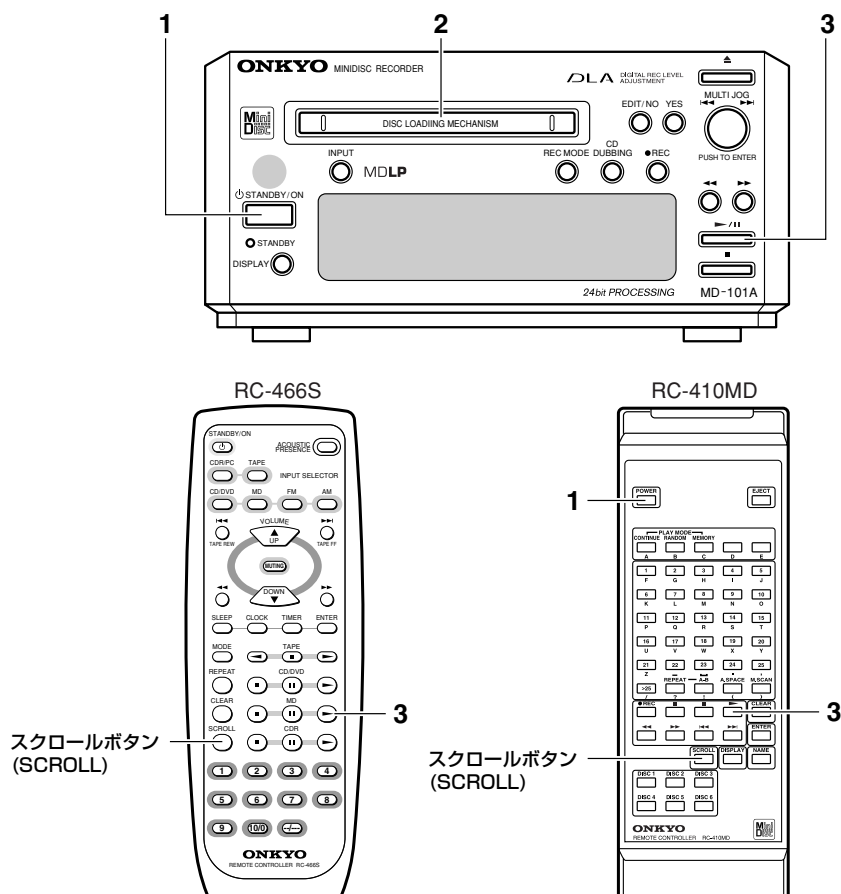
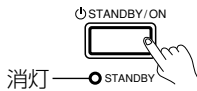
本書ではR-801A（チューナーアンプ）、C-701A（CDプレーヤー）、CDR-201A（CDレコーダー）の組み合わせで操作説明しています。R-801Aの代わりにINTECシリーズのアンプやレシーバー（A-905TX、R-805TX）と接続する場合は、アンプやレシーバーに付属の取扱説明書をご覧のうえ、MD-105TX（MDレコーダー）と本機を置き換えて接続してください。

MD を聞く

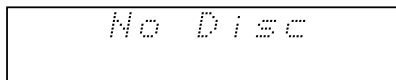
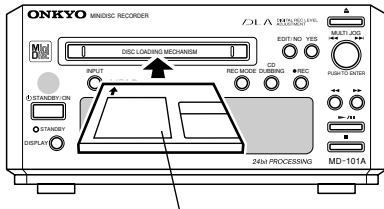
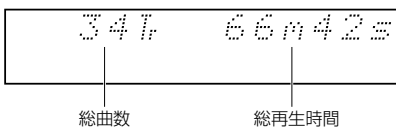
■1曲目から聞く（ノーマル再生）

リモコンのボタンは　　で表示しています。

1

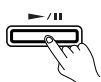
No Disc

電源を入れる

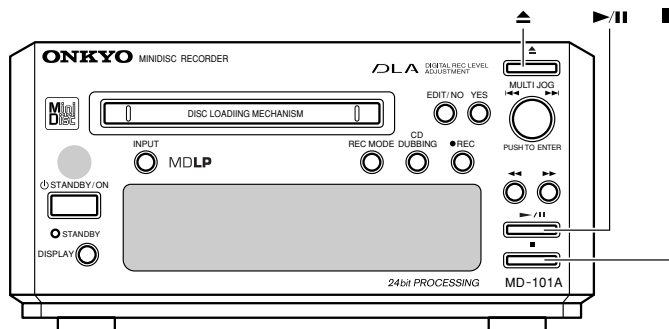
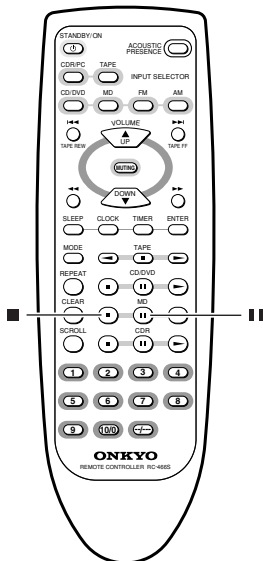
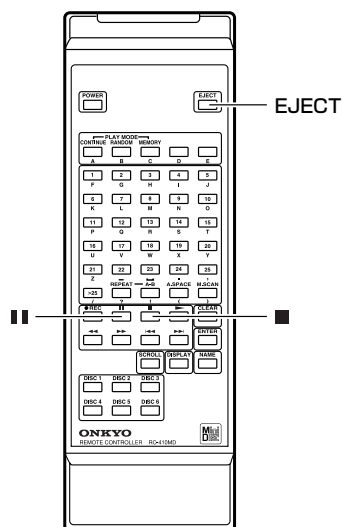
電源ボタン(STANDBY/ON)を押します。
スタンバイインジケーター(STANDBY)が消灯します。

2

ラベル面を上に矢印の方向に差し込む

ディスクを入れる

ディスクを入れると表示部に「Welcome」が表示され、その後ディスクのTOC(Table Of Contents)目次情報を読み取ると、ディスクの総曲数と総再生時間が表示されます。
何も録音されていないディスクを入れると、表示部に「Blank Disc」と表示されます。

ディスク名(ネーム)が記録されたディスクを入れると、表示部にディスク名が表示され、後に総曲数と総再生時間が表示されます。
また、リモコンのスクロールボタン(SCROLL)を押して、ディスク名を確認することができます。

3

再生を始める

プレイ/ポーズボタン(▶/❚❚)またはリモコンのプレイボタン(▶)を押すと1曲目から再生が始まります。

リモコンのボタンは　　で表示しています。

■再生を止めるには

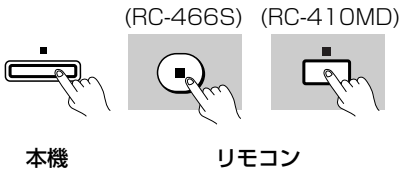
(RC-466S)　(RC-410MD)

本機　　　　リモコン

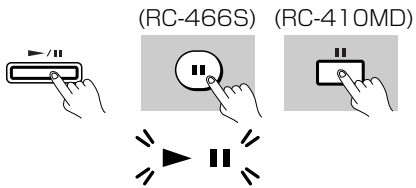
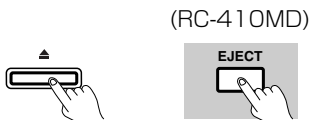
ストップボタン(■)を押します。
再生中にストップボタン(■)を押すと停止します。

■再生を一時停止するには

(RC-466S)　(RC-410MD)

► II

プレイ/ポーズボタン(▶/II)またはリモコンのポーズボタン(II)を押します。
再び再生するには、プレイ/ポーズボタン(▶/II)またはリモコンのプレイボタン(►)を押します。

■ディスクを取り出すには

(RC-410MD)

イジェクトボタン(▲)を押します。
"Eject"が表示され、ディスクが出てきます。

■聞きたい曲から再生するには

（ダイレクト再生 / マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）によるダイレクト再生/ミュージックスキャン）

リモコンのボタンは ▒ で表示しています。

■ダイレクト再生（聞きたい曲番を直接選ぶ）

(RC-466S)

(RC-410MD)

リモコンで、聞きたい曲番の数字ボタンを押します。

ヒント リモコンで数字ボタン以上の曲番を選ぶには

RC-466S: 11曲目以上の曲番を選ぶには、--/--- ボタンを押してから、10の位の数、1の位の数の順に数字ボタンを押します。（0は 10/0 ボタンで指定します。）

例） 30曲目: --/--- ＋ 3 ＋ 10/0

100曲目: --/--- ＋ --/--- ＋ 1 ＋ 10/0 ＋ 10/0

RC-410MD: 26曲目以上の曲番を選ぶには、>25 ボタンを押してから、10の位の数、1の位の数の順に数字ボタンを押します。（0は 10 ボタンで指定します。）

例） 30曲目: >25 ＋ 3 ＋ 10

100曲目: >25 ＋ >25 ＋ 1 ＋ 10 ＋ 10

■マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）によるダイレクト再生

(RC-466S)

(RC-410MD)

再生中にマルチジョグダイヤル（MULTI JOG）で曲を選びます。リモコンの▮◀◀/▶▶▮ボタンで選ぶこともできます。

再生中の曲を中止して後の曲を選ぶには

- マルチジョグダイヤルを右に回す。または、
- リモコンの▶▶▮ボタンを押す。

再生中の曲をもう一度頭から聞いたり、前の曲を選ぶには

- マルチジョグダイヤルを左に回す。または、
- リモコンの▮◀◀ボタンを押す。

メモリー再生中に操作するとメモリーされた順に曲番が選べます。（26ページ参照）

■ミュージックスキャン（聞きたい曲の頭を探す）

(RC-410MD)

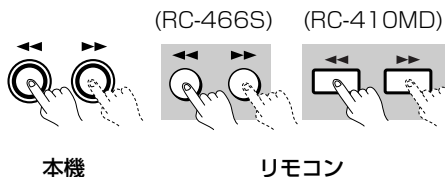
リモコンRC-410MDのみの操作です

再生中または停止中にリモコン(RC-410MD)のミュージックスキャンボタン（M.SCAN）を押すと、曲の頭だけを8秒間ずつ聞くことができます。「M.SCAN」が点灯します。

再生したい曲のところで、リモコンのプレイボタン（▶）、またはミュージックスキャンボタン（M.SCAN）を押すとミュージックスキャンは解除され、その曲からノーマル再生を始めます。

■聞きたい部分を探すには（サーチ）

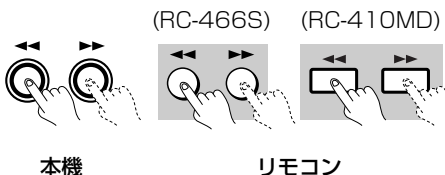
リモコンのボタンは　　で表示しています。

■音を聞きながら探す(再生中)

本機　　　リモコン

再生中に◀◀または▶▶ボタンを押し続け、聞きたい部分で指を離します。

ご注意

LPモードで録音された曲は、サーチに時間がかかることがあります。

■時間表示を見ながら探す(一時停止中)

(RC-466S)　(RC-410MD)

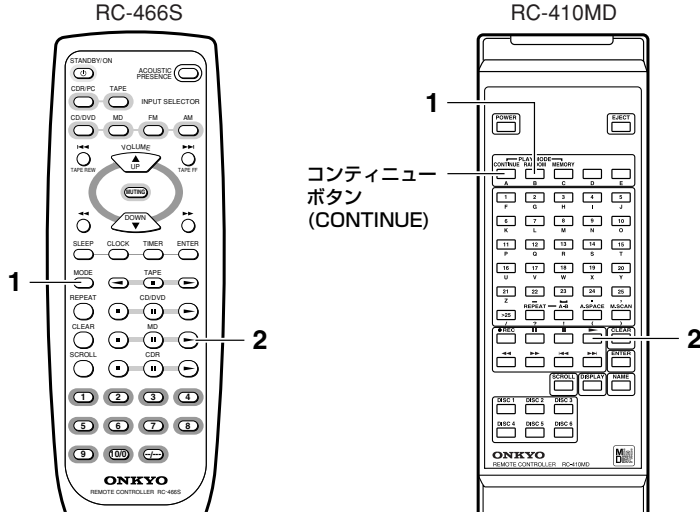
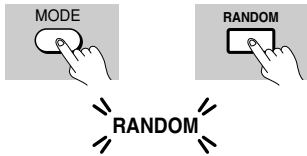
本機　　　リモコン

一時停止中に◀◀または▶▶ボタンを押し続け、聞きたい部分の時間表示を確認して指を離します(高速サーチ)。本機のプレイ/ポーズボタン(▶/❚❚)またはリモコンのプレイボタン(▶)を押すと再生を始めます。

「Over」が表示されたときは、最終曲の終わりです。

■順序不同で聞く(ランダム再生)(リモコンのみの操作です)

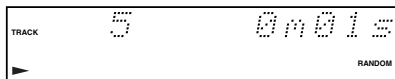
リモコンのボタンは　　で表示しています。

1

「ランダム」モードを選ぶ

停止中にリモコン(RC-466S)のモードボタン(MODE)をくり返し押して、「RANDOM」を表示させせます。

リモコン(RC-410MD)ではランダムボタン(RANDOM)を押します。

2

ご注意

ランダムモードは、イジェクトボタンや電源ボタンまたは録音ボタンを押すと解除されます。

再生を始める

プレイ/ポーズボタン(▶/❚❚)、またはリモコンのプレイボタン(►)を押します。

ランダム再生モードからノーマル再生モードに戻すには

ストップボタン(■)を押し、リモコン(RC-466S)では、「RANDOM」表示が消えるまで、モードボタンを押します。リモコン(RC-410MD)ではランダムボタンまたはコンティニューボタン(CONTINUE)を押します。

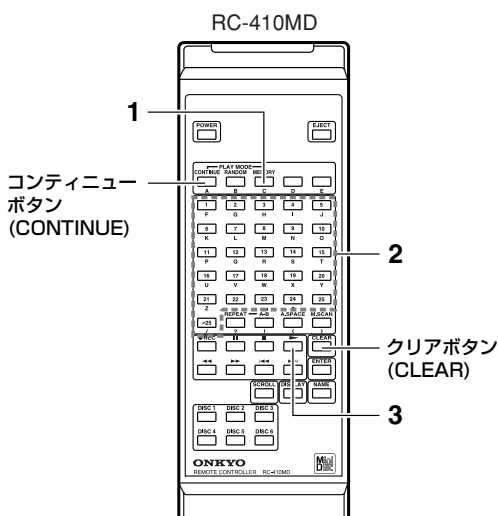
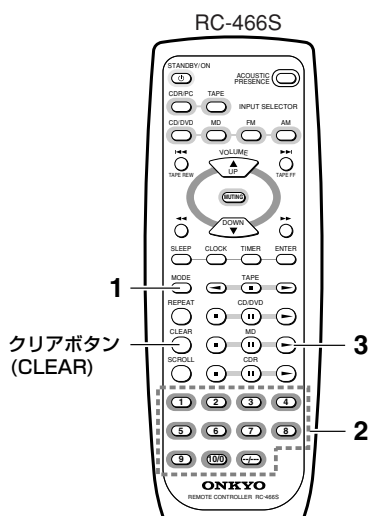
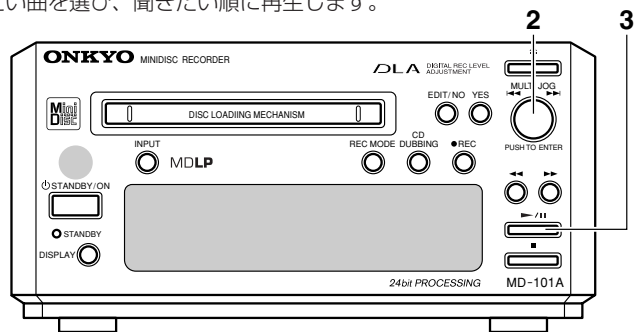
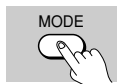
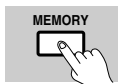
■予約再生をする（メモリー再生）

25曲まで予約できます。
ディスク中の聞きたい曲を選び、聞きたい順に再生します。

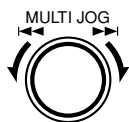
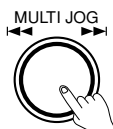
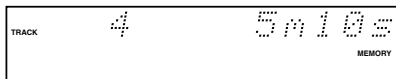
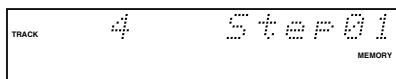
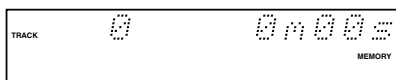
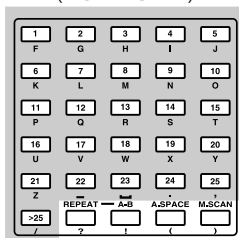
RC-466S

RC-410MD

コンティニューボタン
(CONTINUE)

クリアボタン
(CLEAR)

リモコンのボタンは で表示しています。

「メモリー」モードを選ぶ（リモコンのみの操作です）

停止中にリモコン(RC-466S)のモードボタン(MODE)をくり返し押して、「MEMORY」を表示させます。
リモコン(RC-410MD)ではメモリーボタン(MEMORY)を押します。

2

ご注意

予約時間の合計が512分を越えると、「- - - m - - s」表示になります。

聞きたい曲を聞きたい順に選ぶ

マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して予約したい曲番を表示させた状態で、マルチジョグダイヤルを押します。

リモコンでは

聞きたい曲番の数字ボタンを押します。

リモコンで数字ボタン以上の曲番を選ぶには

RC-466S: 11曲目以上の曲番を選ぶには、--/--- ボタンを押してから、10の位の数、1の位の数の順に数字ボタンを押します。
(0は 10/0 ボタンで指定します。)

例) 30曲目: --/--- ＋ 3 ＋ 10/0
100曲目: --/--- ＋ --/--- ＋ 1 ＋ 10/0 ＋ 10/0

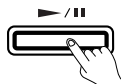
RC-410MD: 26曲目以上の曲番を選ぶには、>25 ボタンを押してから、10の位の数、1の位の数の順に数字ボタンを押します。
(0は 10 ボタンで指定します。)

例) 30曲目: >25 ＋ 3 ＋ 10
100曲目: >25 ＋ >25 ＋ 1 ＋ 10 ＋ 10

予約内容を確認をするには

停止中に◄◄、►►ボタンを押して予約内容を確認できます。

3

ご注意

ランダムモードは、イジェクトボタンや電源ボタンまたは録音ボタンを押すと解除されます。

再生を始める

予約再生が終わると

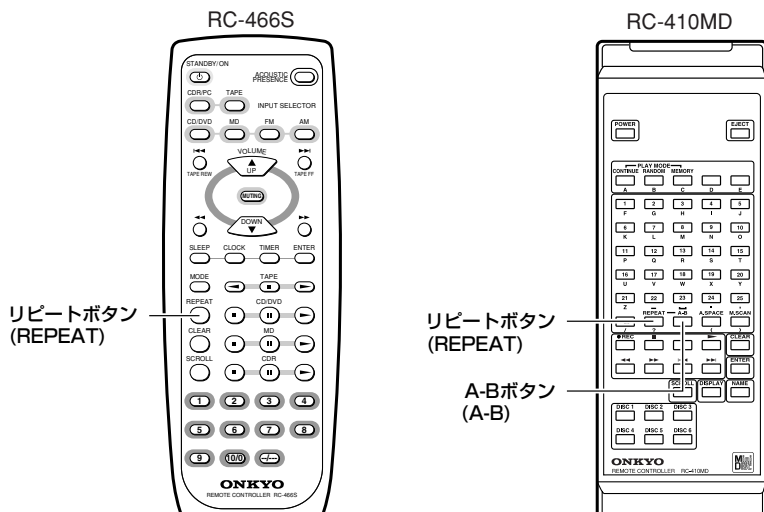
予約内容は記憶されたまま、停止状態になります。

メモリー再生モードをやめるには

停止中に、「MEMORY」表示が消えるまで、リモコン(RC-466S)のモードボタン(MODE)を押します。リモコン(RC-410MD)ではメモリーボタン(MEMORY)またはコンティニューボタン(CONTINUE)を押します。

予約内容を取り消すには

メモリー再生停止中にリモコンのクリアボタン(CLEAR)を押すたびに最後の予約曲から取り消されます。

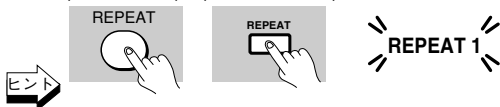
■くり返し再生するには（全曲リピート/ 1曲リピート/A-Bリピート）（リモコンのみの操作です）

リモコンのボタンは　　で表示しています。

■全曲をくり返す（リピートボタン（REPEAT）を1回押す）

(RC-466S)　(RC-410MD)

■1曲をくり返す（再生中にリピートボタン（REPEAT）を2回押す）

(RC-466S)　(RC-410MD)

ヒント

メモリー再生中にリピートボタン（REPEAT）を押すと

メモリーした曲だけをメモリー順にくり返し再生します。

ランダム再生中にリピートボタン（REPEAT）を押すと

ランダム再生で全曲をくり返すたびに、曲順を入れ換えてくり返し再生します。

ご注意

メモリー再生中、ランダム再生中は、REPEAT 1（1曲をくり返す）は働きません。

くり返し再生をやめるには

REPEAT表示が消えるまで、リピートボタン（REPEAT）を押してください。

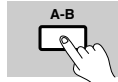
ご注意

全曲リピートモード、1曲リピートモードは、イジェクトボタンや電源ボタンを押すと解除されます。

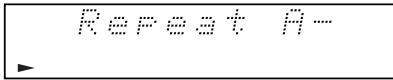
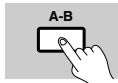
リモコンのボタンは　　で表示しています。

■聞きたい部分だけをくり返す(A-Bリピート)（リモコンRC-410MDのみの機能です）

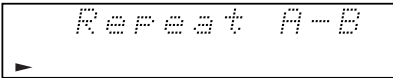
1

(RC-410MD)

Repeat A-

再生中に、くり返したい部分の始め(A点)でA-Bボタン(A-B)を押す。

2

(RC-410MD)

Repeat A-B

くり返したい部分の終わり(B点)でA-Bボタン(A-B)を押す。

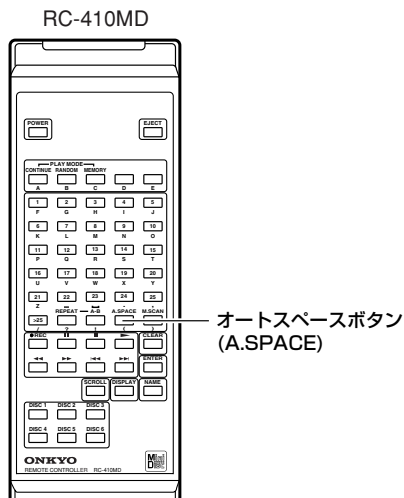
A点とB点の間をくり返し再生します。

くり返し再生をやめるには

- くり返し再生中にA-Bボタン(A-B)またはリピートボタン(REPEAT)を押すと、A-Bリピートはキャンセルされます。
- くり返し再生中にストップボタン(■)を押すと、A-Bリピートはキャンセルされ、再生が停止します。

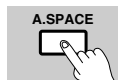
ご注意

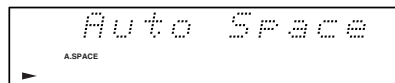
- A-Bリピートは、リピート再生中(全曲リピート、1曲リピート)、メモリー再生中、ランダム再生中は働きません。
- 曲番をまたいでのA-Bリピートはできません。

■曲間を作る（オートスペース）（リモコン（RC-410MD）のみの機能です）

オートスペースとは、曲と曲の間に約3秒間の無音部を作って自動的に再生する機能です。

リモコンのボタンは　　で表示しています。

オートスペースを「ON」に設定する

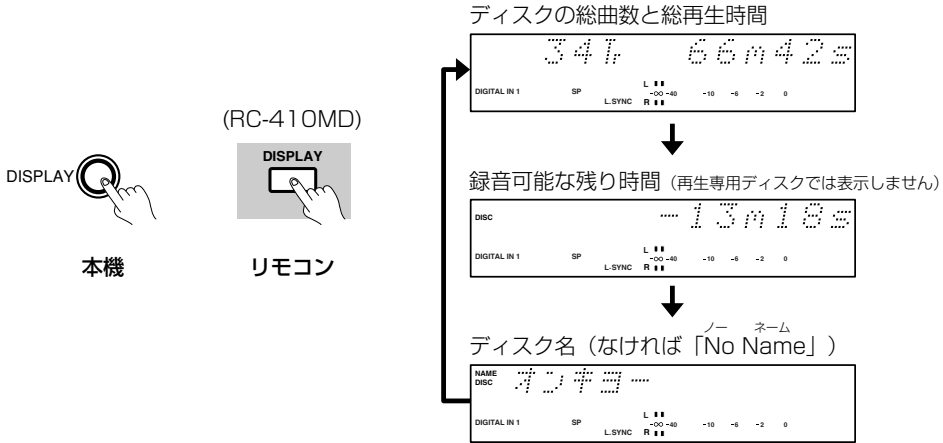
(RC-410MD)

再生中、停止中、一時停止中にオートスペースボタン(A.SPACE)を押して、「A.SPACE」を点灯させます。

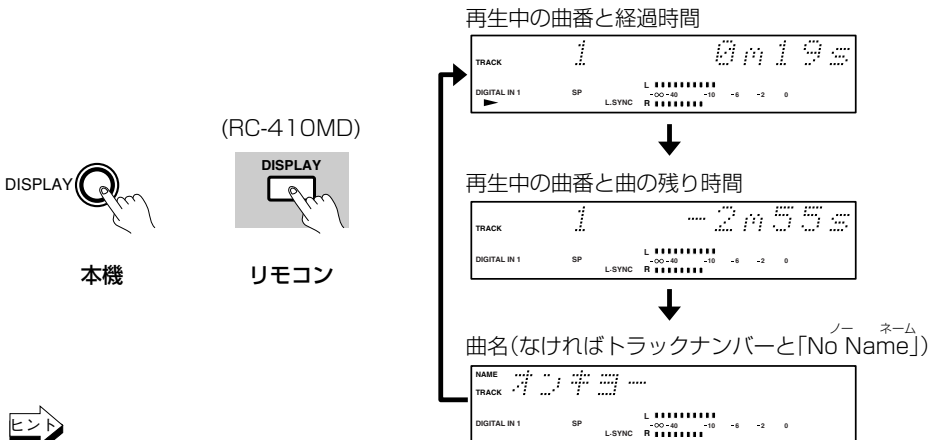
オートスペースを「ON」に設定すると、曲間に約3秒間"Auto Space"と表示されます。

■オートスペースをやめるには

もう一度オートスペースボタンを押します。「A.SPACE」表示が消灯してオートスペースは解除されます。また、イジェクトボタンや電源ボタンを押しても解除されます。

リモコンのボタンは　　で表示しています。

■表示内容を切り換える

停止状態で本体またはリモコン(RC-410MD)のディスプレイボタン(DISPLAY)をくり返し押すと、次のように情報の切り換えができます。

再生中または一時停止中に、本体またはリモコン(RC-410MD)のディスプレイボタンをくり返し押すと、次のように情報の切り換えができます。

ヒント

曲名が長い場合は

リモコンのスクロールボタン(SCROLL)を押して、表示を移動させます。
移動中にスクロールボタンを押すと表示が止まります。再度押すと移動が始まります。

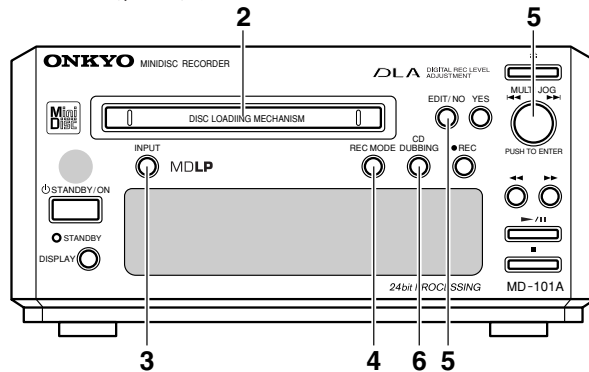
録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
お問い合わせ先:(社)私的録音補償金管理協会　Tel. 03-5353-0336

■CDダビングをするには(システム操作)

R-801A、C-701Aでシステム接続した場合、CDから本機へのCDダビングができます。

- A-909LTD、A-909、A-905およびC-705はDLA Link機能(35ページ)は働きません。
- INTEC205シリーズのCDR-205TXおよびCDR-205X(CDレコーダー)および、INTEC155シリーズのCDR-201A(CDレコーダー)から本機へのダビングは働きません。また、他社製品などRI端子のない製品と接続した場合もCDダビング機能は働きません。これらの場合は、シグナルシンクロ録音(48ページ)をご利用ください。

本機には、2つのCDダビングモード(アルバムダビングとフェードアウトダビング)があります。
この設定は、CDダビングのみの機能です。シンクロ録音などに設定することはできません。
アルバムダビング .... 最後まで録音できなかった曲は消去されます。
1曲のみのダビングの場合は、曲が途中で切れても、切れたところまで録音されます。
フェードアウトダビング .... 最後まで録音できなかった曲を途中でフェードアウト(除々に音量を小さく)します。

ご注意

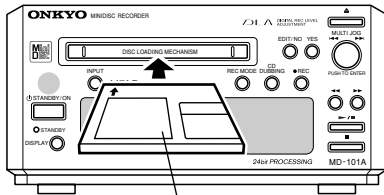
- CDダビングには、本機のデジタル入力端子1にC-701Aからの光デジタルケーブルが接続されていることが必要です。システム接続については、R-801Aの取扱説明書をご覧ください。
- 通常の録音をするには、「アナログ入力を録音する」(37ページ)または「デジタル入力を録音する」(41ページ)をご覧ください。
- MDの誤消去防止孔が閉じていることを確認してください。孔が開いている状態では録音できません。

CDを入れる

CDの入れかたについては、C-701Aの取扱説明書をご覧ください。

2

ラベル面を上に矢印の方向に差し込む

録音済みの曲数　総録音時間

録音用のディスクを入れる

録音できる残り時間を確かめるには

停止状態でディスプレイボタン(DISPLAY)を押すと、次のように表示をくり返します。

ディスクの総曲数と総録音時間

▼

録音可能な残り時間

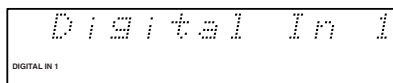
▼

ディスク名(なければ「No Name」)

録音済みディスクのすべてを消して録音するには

ディスク内容をすべて消してから録音を始めてください。(52ページ参照)

3

Digital In 1

DIGITAL IN 1

「DIGITAL IN 1」を選ぶ

入力切り換えボタン(INPUT)をくり返し押し、「Digital In 1」を表示させます。

ご注意

「Analog In」「Digital In 2」ではCDダビング機能は働きません。

4

録音モードを選ぶ

録音モード切り換えボタン(REC MODE)で好みの録音モードを選びます。

MONO(モノ) : モノラル録音モードです。録音可能時間は「SP」の2倍になります。
SP : 通常のステレオ録音モードです。ディスクに記載されている時間分のステレオ録音ができます。
LP2 : 通常のステレオ録音を1/2に圧縮して録音します。録音可能時間は「SP」の2倍になります。
LP4 : 通常のステレオ録音を1/4に圧縮して録音します。録音可能時間は「SP」の4倍になります。

ディスクの録音可能な残り時間を確認するには

録音可能時間が表示されていないときは、ディスプレイボタン(DISPLAY)を(くり返し)押してください。

ご注意

LP2、LP4 の各モードで録音したディスクは、MDLP表示のある機器以外では再生できません。また、このディスクを他のMDプレーヤーで再生すると表示部に“LP：”が表示されることがあります。

CDダビングモードを選ぶ

エディット／ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して"CD Dub Mode?" を表示させる

マルチジョグダイヤルを押す
左側の表示が現在のモードです。
(左記の場合はフェードアウトモードです。)

ダビングモードを切り換えるときは、マルチジョグダイヤルを押す

切り換えない場合は、エディト／ノーボタンを押す

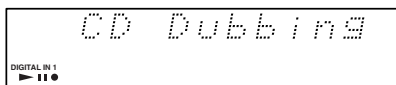
ご注意
残り時間の少ないディスクでは正常にフェードアウトできないことがあります。

「Protected」が表示されたときは…

エディット／ノーボタンを押したとき「Protected」が表示された場合は、ディスクの誤消去防止孔が開いた状態になっています。録音するには、閉じた状態に戻してください。(49ページ参照)

CDダビングボタン(CD DUBBING)を押す

CDは、ピークサーチを行い、本機はそのピーク値に合った最適な録音レベルに自動設定します。(DLA Link機能)
その後本機が自動的に録音待機状態になりCDの演奏が1曲目からスタートして、全曲のデジタル入力録音を行います。

CDの演奏が終わると、本機は停止します。

CDダビング中に、CDダビングボタンを押すと現在のCDダビングモードの設定が確認できます。

DLA : Digital Rec Level Adjustmentの略です。

録音を止めるには

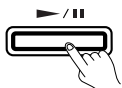
ストップボタン(■)を押します。

■トラック指定CDダビングをするには(システム操作)

R-801A, C-701Aでシステム接続した場合、本機はCDプレーヤーが演奏中、または、一時停止中の曲を1曲だけワンタッチで録音できます。

1

C-701A

►/II

CDを演奏する

好みの曲を演奏します。

2

CD
DUBBING

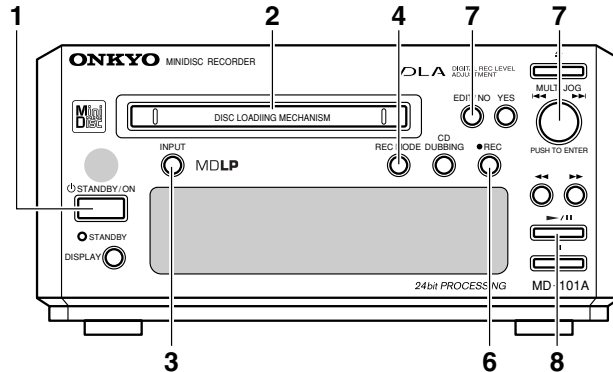
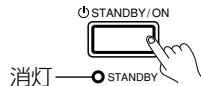
CDダビングボタンを押す

CDは、ピークサーチを行い演奏中の曲の頭にもどり本機はその曲だけ録音します。 DLA Link機能が働きます。
(35ページ参照)

曲が終わるとCDは次の曲の演奏を続け本機は停止します。

ヒント

CDダビングモードをフェードアウト(Fade out)に設定していると、最後まで録音できなかった曲を途中でフェードアウト(除々に音量を小さく)します。
アルバム(Album)に設定していると曲が途中で切れても切れたところまで録音されます。

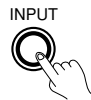
■アナログ入力を録音する（オーディオ用ピンコードからの入力を録音します。）

1

電源を入れる

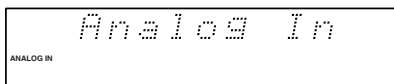
スタンバイインジケーター（STANDBY）が消灯します。

2

録音用のディスクを入れる

33ページの手順***2***を参考に録音用のディスクをセットしてください。

3

「ANALOG IN」を選ぶ

入力切り換えボタン（INPUT）をくり返し押して、「Analog In」を表示させます。

ご注意

アンプの入力切り換えツマミや録音選択ボタンが録音ソースのポジションになっていることを確認してください。

4

REC MODE

録音モードを選ぶ

34ページの手順4を参考に録音モードを選んでください。

5 録音ソースを再生する

C-701Aとシステム接続している場合は、ここでCDプレーヤーの演奏を始めてください。

6

●REC

録音待機状態にする

録音ボタン(●REC)を押します。

7-1

録音レベルを調整する

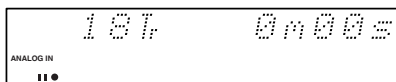
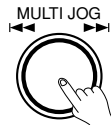
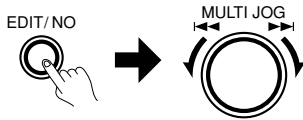
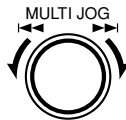
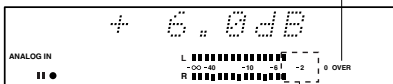
エディト/ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して"Rec Level?" を表示させます。

Rec Level?
ANALOG IN
L
R

マルチジョグダイヤルを押します。

2

マルチジョグダイヤルを回して録音レベルを調整する

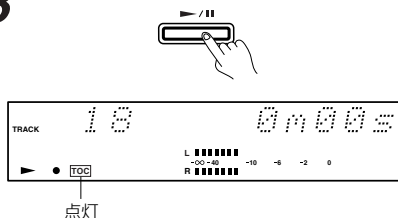
入力レベルが最も大きいときに −4dBから−2dBの範囲で点灯するように調整します。また、録音レベルの設定値がデシベル(dB)で表示されますので録音時の目安にしてください。

「OVER」が点灯しないように調整する

入力レベルが最も大きいときに、−4から−2の範囲で調整する

−60.0dB〜−30.0dBの間は5dB間隔で
−30.0dB〜−12.5dBの間は2.5dB間隔で
−12.5dB〜＋18.0dBの間は0.5dB間隔で
調整することができます。

マルチジョグダイヤルを押します。
"Complete" が表示されます。

Complete

録音レベル調整後、録音ソースの演奏を止めます。

8

録音を始める

本機のプレイ/ポーズボタン(▶/Ⅱ)を押してから、録音ソースの演奏を始めます。録音が開始されたら TOC が点灯します。
ディスクの最後まで録音すると停止します。
曲番は自動的に記録されます。(44ページ「レベルシンク機能を使う」参照)

ご注意

録音する曲の強弱により、曲の切れ目を判断するため、以下の場合は曲番が正しくつかないことがあります。
- カセットテープの記録状態が悪い。(曲と曲の間のノイズなど)
- クラシック音楽などで小さい音が続いている。
- 曲と曲の間が非常に短い。
- チューナーの受信状態が悪い。(ノイズなど)

レベルシンク機能を解除したいときは、44ページの「レベルシンク機能を使う」をご覧ください。

手動で曲番をつけるには
録音中に曲番をつけたいところで録音ボタン(●REC)を押します。ただし、あまり間隔が短い(約4秒以下)と曲番がつかないことがあります。

録音を一時停止するには
プレイ/ポーズボタン(▶/Ⅱ)を押します。再び録音するには、再度プレイ/ポーズボタン(▶/Ⅱ)を押します。

録音を止めるには
ストップボタン(■)を押します。

録音状況を確かめるには
49ページをご覧ください。

ディスクを取り出すには
停止中にイジェクトボタン(▲)を押します。

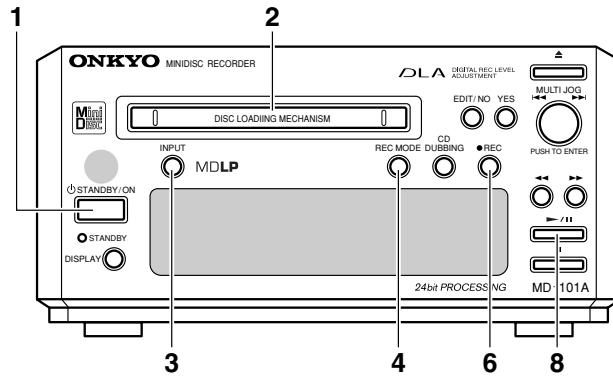
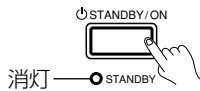
ご注意

TOC表示が点灯、点滅しているときは
曲番などの情報は、MDを取り出すとき、スタンバイ状態になるとき、録音停止時などにMDの目次部分(TOC=Table Of Contents)に書き込まれます。
以下のときは、電源プラグを抜いたり、揺らしたりしないでください。正しい記録ができません。

- **TOC表示が点灯しているとき**
  MDのTOCに書き込む情報が本体のメモリーに保存されている状態です。
- **TOC表示が点滅しているとき**
  MDに情報を書き込んでいる最中です。

■デジタル入力を録音する（オーディオ用光デジタルケーブルからの入力を録音します。）

デジタル録音について

本機にはサンプリングレートコンバーターが搭載されていますので、CD（PCM 44.1kHz ）以外のデジタル外部機器（DAT, 衛星放送など）からのデジタル信号（PCM 32kHzや48kHz）も録音することができます。

1 電源を入れる

スタンバイインジケーター（STANDBY）が消灯します。

2 録音用のディスクを入れる

33ページの手順***2***を参考に録音用のディスクをセットしてください。

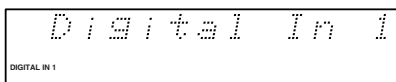
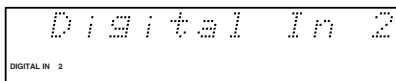
3

INPUT

Digital In 1

DIGITAL IN 1

または

Digital In 2

DIGITAL IN 2

「DIGITAL IN1」または「DIGITAL IN2」を選ぶ

入力切り換えボタン（INPUT）をくり返し押して、「DIGITAL IN 1」または「DIGITAL IN 2」を表示させせます。

ご注意

どちらの入力端子に光デジタルケーブルが接続されているか確認してください。入力端子を接続せずにデジタル入力録音を行うと "D. In Unlock" が表示され、録音ができません。
C-701Aと接続する場合は「DIGITAL INPUT 1」につないでください。

4

REC MODE

録音モードを選ぶ

34ページの手順***4***を参考に録音モードを選んでください。

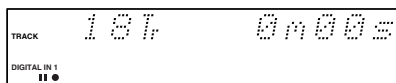
5 録音ソースを再生する

C-701Aとシステム接続している場合は、ここでCDプレーヤーの演奏を始めてください。

6

●REC

TRACK 18Tr 0m00s

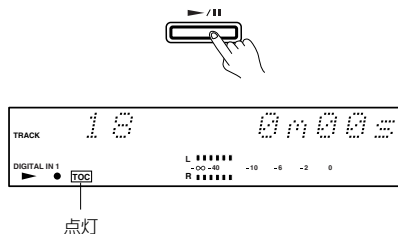
DIGITAL IN 1

録音待機状態にする

録音ボタン（●REC）を押します。
"D. In Unlock" と表示されたらデジタル入力信号が正常につながっていません。接続を確認してください。

7 録音レベルを調整する

39ページの手順***7-1***、***7-2***を参考に録音レベルを調整してください。

8

点灯

録音を始める

本機のプレイ／ポーズボタン(▶/II)を押してから、録音ソースの演奏を始めます。録音が開始されたら、TOCが点灯します。

録音を一時停止するには
プレイ／ポーズボタン(▶/II)または、リモコンのポーズボタン(II)を押します。再び録音を始めるには、プレイ／ポーズボタン(▶/II)または、リモコンのプレイボタン(►)を押します。

録音を止めるには
ストップボタン(■)を押します。

ディスクを取り出すには
ストップボタン(■)を押してからイジェクトボタン(▲)を押します。

CDから本機へのデジタル録音の場合は、レベルシンク(44ページ)をオフに設定していても自動的に曲番がつきます。
曲番を自動的につけるには、デジタル信号に曲の終わりと始めを認識させる為の信号が含まれている必要があります。機器や放送の中にはこの信号を出さないものがあります。
この場合は曲番は自動的につきません。次ページのレベルシンク機能を利用してください。

ご注意

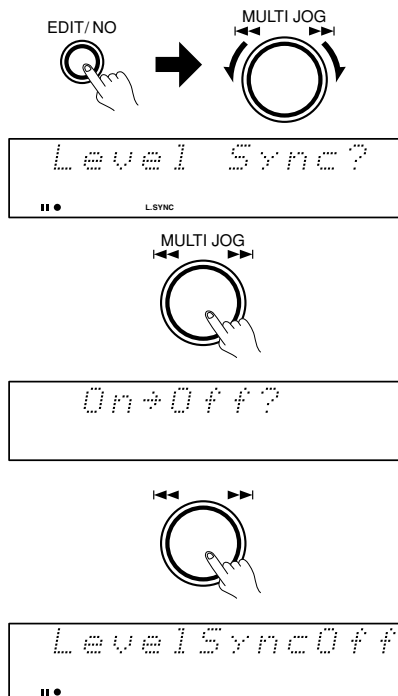
TOC表示が点灯、点滅しているときは
曲番などの情報は、MDを取り出すとき、スタンバイ状態になるとき、録音停止時などにMDの目次部分(TOC（トック）＝Table（テーブル） Of（オブ） Contents（コンテンツ）)に書き込まれます。
以下のときは、電源プラグを抜いたり、揺らしたりしないでください。正しい記録ができません。

- **TOC表示が点灯しているとき**
  MDのTOCに書き込む情報が本体のメモリーに保存されている状態です。
- **TOC表示が点滅しているとき**
  MDに情報を書き込んでいる最中です。

■レベルシンク機能を使う

レベルシンク機能とは、入力レベルの立ち上がりで自動的に曲番をつける機能です。
(初期設定ではレベルシンクオン(曲番をつける)に設定されています。)

Level Sync?
II ● L.SYNC

On→Off?

LevelSyncOff
II ●

曲番をつけたくないときは

録音中または録音待機中に下記の操作をします。

1 エディット/ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して"Level Sync?" を表示させます。

2 マルチジョグダイヤルを押します。
現在の設定が表示されます。(この場合は "On→Off" で、オンからオフにしますか?の意味)

3 マルチジョグダイヤルを押します。
"Level Sync Off" の表示が現れ、録音中曲が変わっても曲番はつきません。

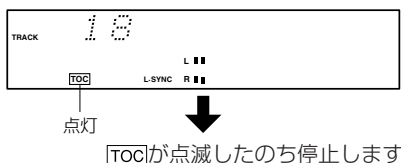
- この設定を途中で止めたい時は、エディット/ノーボタン(EDIT/NO)を押します。

曲番をつける設定に戻すときは
上記と同じ操作をします。手順2で "Off→On" と表示されるので、手順3でマルチジョグダイヤルを押すと "Level Sync On" の表示が現れ、曲番が自動的に付くようになります。

■録音オートストップ機能

信号停止から約1分後

TOCが点滅したのち停止します

録音オートストップ機能とは
レベルシンクをオンに設定しておくと、録音ソースからの信号(深夜のラジオ番組など)が停止(終了)してから、約1分後に録音が自動的に停止する機能です。
信号停止後の録音をしたくないときは、この機能を使うと便利です。レベルシンクをオフに設定すると録音オートストップ機能は働きません。

ご注意

- CDを録音する際など、そのCDに1分以上の無音部分がある場合にも録音オートストップ機能は働きますので、録音が途中で停止します。このようなCDなどを録音する場合は、レベルシンクをオフに設定してください。
- CDダビング時には、録音オートストップ機能は働きません。

シンクロ録音（システム操作）

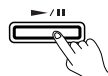
■CDシンクロ録音をするには

R-801A、C-701Aとシステム接続した場合、CDシンクロ録音ができます。

1 録音の準備をする

録音の準備については、「アナログ入力を録音する(37、38ページの手順***1***〜***4***)」、「デジタル入力を録音する(41、42ページの手順***1***〜***4***)」をご覧ください。
デジタル入力でＣＤシンクロ録音をするには、本機のデジタル入力端子1とC-701Aのデジタル出力端子を光デジタルケーブルで接続してください。

2 本機を録音待機状態にする

3 ＣＤを演奏する

本機の表示部に時間表示(0m00s)が点灯してから、C-701Aのプレイ／ポーズボタン(▶/❚❚)を押してください。“Synchro Rec”と表示され、録音を開始します。
録音レベルが適当でないときは、39ページの手順***7***を参考にして録音レベルを調整してください。

CDの演奏が終了すると、本機は録音待機状態になります。
シンクロ録音を途中でやめるには、ＣＤの演奏を停止します。本機は録音待機状態になります。

ご注意
アナログ入力録音のとき、アンプの入力切り換えツマミは、CDの位置に合わせ、録音中は切り換えないでください。切り換えると、MDは録音待機状態になります。

シンクロ録音（システム操作）

■CDレコーダーから本機へのシンクロ録音

R-801A、CDR-201Aとシステム接続するとCDレコーダーから本機へのシンクロ録音ができます。
CDR-201Aの接続については、CDR-201Aの取扱説明書をご覧ください。

1

INPUT

アナログ(Analog In)を選ぶ

入力切り換えボタン(INPUT)をくり返し押して、「Analog In」を表示させます。

ご注意

入力が「Digital In 1」または「Digital In 2」になっていると、シンクロ録音できません。

2

REC MODE

録音モードを選ぶ

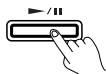
34ページの手順***4***を参考に録音モードを選んでください。

3

●REC

本機を録音待機状態にする

4

CDR-201A

CDレコーダーを再生する

本機の表示部に時間表示(0m00s)が点灯してから、ＣＤＲ-２０１Ａのプレイ／ポーズボタン(▶/❚❚)を押してください。“Synchro Rec”と表示され、録音を開始します。
録音レベルが適当でないときは、39ページの手順***7***を参考にして録音レベルを調整してください。

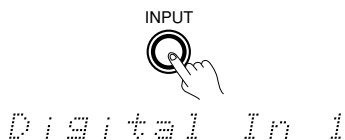
本機が録音状態になりCDレコーダーからの信号を録音します。
録音レベルが適当でないときは、39ページの手順7を参考にして録音レベルを調整してください。

CDレコーダーの再生のしかたについてはCDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
シンクロ録音をやめるには、CDレコーダーの再生を停止します。本機は録音待機状態になります。

シグナルシンクロ録音

■シグナルシンクロ録音

ポータブルMDプレーヤーやRI端子のない製品、他社製品と組み合わせて、シンクロ録音することができます。また、INTEC155シリーズのCDR-201Aから録音する場合もこの方法でシグナルシンクロ録音ができます。
停止中に操作します。

1

Digital In 1

入力を選ぶ

入力切り換えボタン（INPUT）をくり返し押して、「Digital In 1」、「Digital In 2」または「Analog In」のいずれかを表示させます。
デジタル入力·アナログ入力のどちらでも、シグナルシンクロ録音ができます。

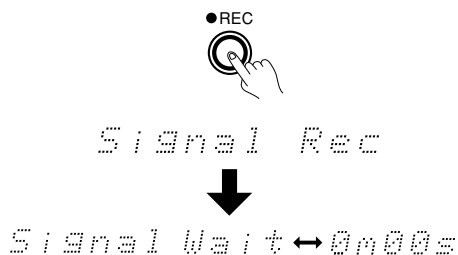
2

録音モードを選ぶ

34ページの手順***4***を参考に録音モードを選んでください。

3

Signal Rec

↓

Signal Wait ↔ 0m00s

「Signal Rec?」と表示させる

録音ボタン（●REC）を押して、表示部に時間表示(0m00s)が点灯したら、もう一度録音ボタンを押します。"Signal Rec" が表示されます。

本機は入力信号待ち状態になり "Signal wait" と時間表示が交互に表示されます。

入力信号待ち状態で約30秒間信号が入ってこないと録音待機状態になります。

4

録音が始まる

"Signal wait" と時間表示を交互に表示している間に手順1で選んだ入力に録音ソースから信号が入ってくると、録音が開始されます。

録音に関するその他の機能

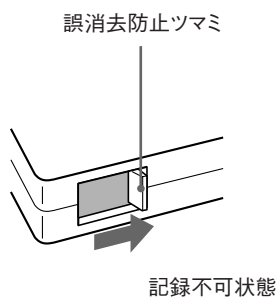
■録音結果を確かめるには

- 録音を止めたあと、本機のプレイ/ポーズボタン(▶/❚❚)を押すと、現在録音した曲番から再生されます。
- ディスクの始めから再生するには、録音を止めたあと、もう一度ストップボタン(■)を押してからプレイ/ポーズボタン(▶/❚❚)または、リモコンのプレイボタン(▶)を押してください。

■停電時のご注意

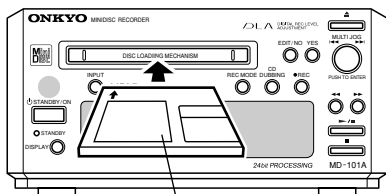
録音した内容をディスクに記録する前（TOC点灯)、または記録中(TOC点滅中)に誤ってコンセントを抜いてしまったり停電が起きた場合は、停電前の記録内容は保持されません。

■録音した内容を誤って消さないために

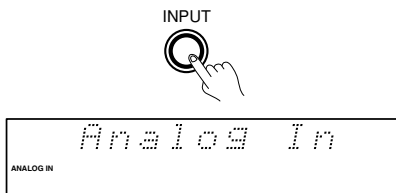
録音を禁止するには、ディスクの誤消去防止ツマミをずらして、孔を開いた状態にします。（記録不可状態）
再び録音するには、ツマミを元に戻します。

タイマー録音と再生

■タイマー再生やタイマー録音をするには(システム動作)

本機とR-801Aとシステム接続するとタイマー動作ができます。
タイマーセットの方法は、R-801Aの取扱説明書をご覧ください。

1 再生用または録音用ディスクを入れる

ラベル面を上に矢印の方向に差し込む

2 「Analog In」を選ぶ

Analog In
ANALOG IN

録音する場合は、アナログ入力に設定してください。
必ず常時通電しているコンセントに接続してください。R-801Aの背面に付いている電源コンセントに接続した場合は、R-801Aの電源コードをコンセントから抜かないでください。

3 録音モードを選ぶ

34ページの手順*4*を参考に録音モードを選んでください。

4 R-801Aのタイマーを設定する

編集をする

■録音したディスクの編集(曲を移動する、分ける、つなぐ)/消去をする

曲を移動して曲順を入れ換える、1つの曲を2つに分ける、2つの曲をまとめて1つにする、曲を消去する、ディスクの録音すべてを消去する、の5つの基本機能があります。

■編集／消去機能の種類

全曲消去する—All(オール) Erase(イレーズ)

ディスクに記録されているすべての曲とネームを消去します。("Blank(ブランク) Disc(ディスク)" になります。)

曲を消去する—Erase(イレーズ)

1曲を選んで消去する機能です。

曲を移動する—Move(ムーブ)

1曲を選んで移動する機能です

曲を分ける—Divide(ディバイド)

1曲を2つに分ける機能です

曲とつなぐ—Combine(コンバイン)

1曲を選び、その1つ前の曲とつないで1曲にまとめる機能です。

■編集／消去機能の組合せ

曲の一部を消去する
(Divide(ディバイド)+Erase(イレーズ))

消去したい部分をDivide(ディバイド)機能で(またはこの機能をくり返して)分けてから、Erase(イレーズ)機能で消去します。

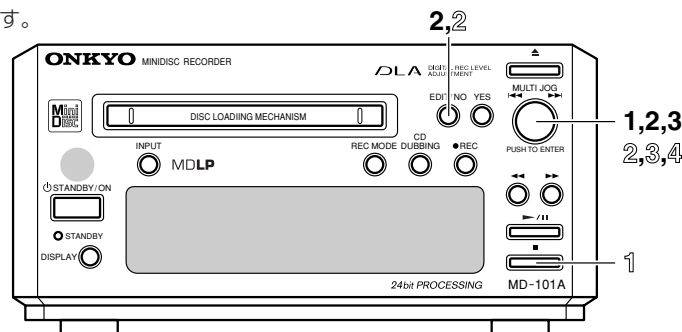
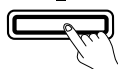
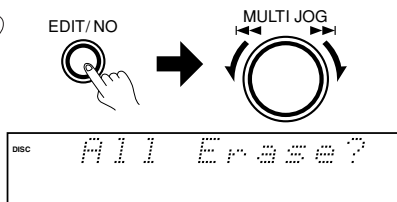
離れた2つの曲をつなぐ
(Move(ムーブ)+Combine(コンバイン))

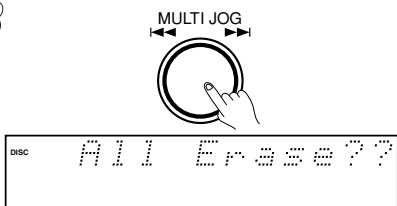
Combine(コンバイン)は、選んだ曲と直前の曲をつなぐ機能です。離れた2つの曲をつなぐときは、Move(ムーブ)機能で曲を移動したあとに、Combine(コンバイン)機能を使います。

編集／消去についてのご注意

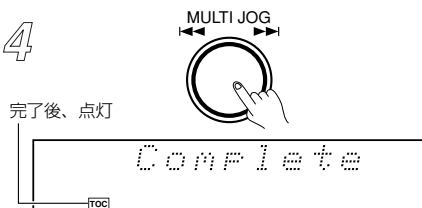
- 再生専用ディスクは編集できません。
- Memory表示、Random表示が点灯していると編集できません。"Cannot Edit" が表示されます。
- ディスクの誤消去防止孔が開いた状態では編集できません(49ページ参照)
  "Protected" が表示されます。必ず誤消去防止孔を閉じた状態で編集してください。
- 編集／消去の情報は、ディスクを取り出すとき、スタンバイ状態になるときなどにディスクの目次部分(TOC(トック))に書き込まれます。TOC(トック)表示が点灯、点滅しているときは、電源コードを抜いたり、本機を揺らしたりしないでください。

■曲を消す(Erase機能)

- 不要な部分を消すことができます。
- 停止中に操作します。

■全曲を消すには(All Erase)

1 ストップボタン(■)を押す

2 エディット/ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して"All Erase ?"と表示させる

"All Erase?"を中止するには、エディット/ノーボタンまたは、ストップボタン(■)を押します。

3 マルチジョグダイヤルを押して"All Erase ??"と表示させる

曲番表示が点滅します。

"All Erase??"を中止するには、エディット/ノーボタンまたは、ストップボタンを押します。

4 もう一度マルチジョグダイヤルを押す

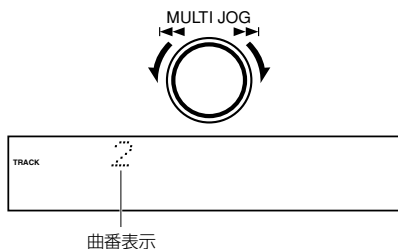
全曲消去が完了すると"Complete"と表示されます。

ご注意

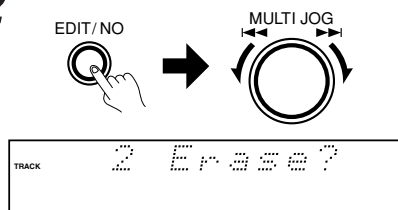
TOC点灯・点滅中は、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

■一曲を消すには(Erase)

• 停止中、一時停止中に操作します。

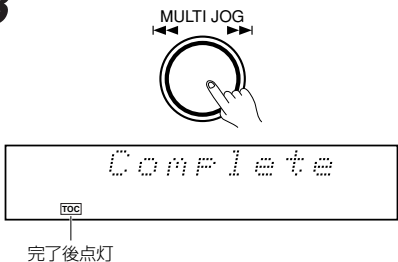
1

消したい曲番を選ぶ

マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して、消したい曲番を選びます。

2

"Erase ?"と表示させる

エディット/ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤルを回して"Erase ?"と表示させます。

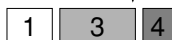
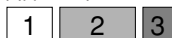
Eraseを中止するには
エディット/ノーボタンまたは、ストップボタン(■)を押します。

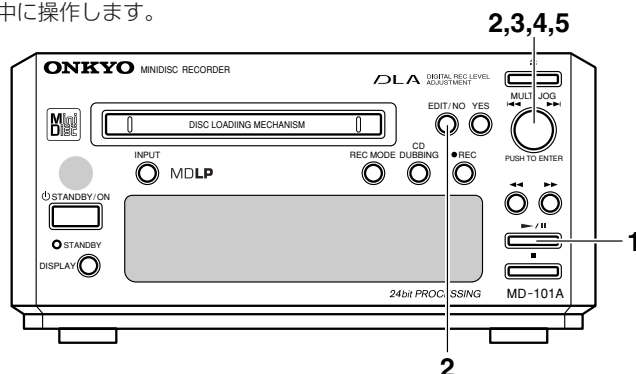
3

選んだ曲を消す

マルチジョグダイヤルを押すと、選んだ曲が消去されます。
消去が完了すると、"Complete"と表示されます。

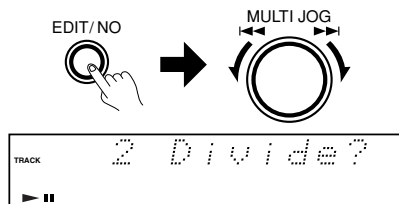
消去した曲以降の曲番は、1つずつくり上がります。(たとえば、2曲目を消すと、3曲目が2曲目になり、4曲目が3曲目になります。)

ご注意

TOC点灯・点滅中は、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

■曲を分ける(Divide機能)

• 曲を分けることができます。
• 再生中、一時停止中に操作します。

1 分ける曲を分けたい部分で一時停止にする

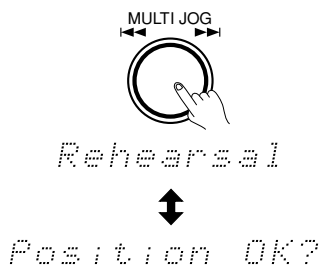
2

EDIT/NO
MULTI JOG
TRACK 2 Divide?

"Divide ?"と表示させる

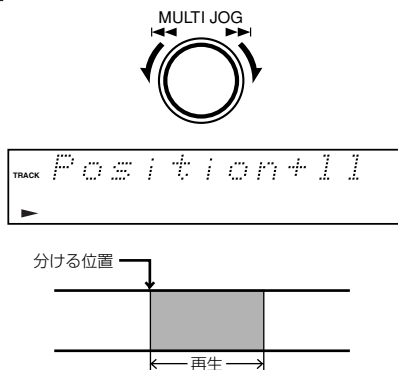
エディット/ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して"Divide ?"と表示させます。

Divideを中止するには
エディット/ノーボタンまたは、ストップボタン(■)を押します。

3

MULTI JOG
Rehearsal
↕
Position OK?

マルチジョグダイヤルを押す

マルチジョグダイヤルを押すと、"Rehearsal"と"Position OK?"が交互に表示され、分ける部分がくり返し再生されます。

4

分ける位置を微調整する

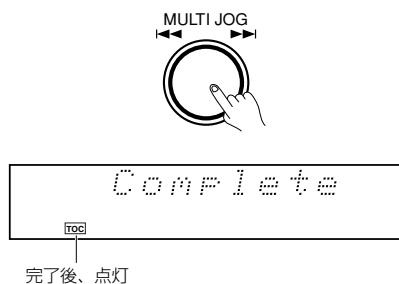
分ける位置を微調整するには
再生音を聞きながら、マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）を回します。
その曲の中で -45から +45まで移動できます。
移動量は録音モードにより異なります。

1ステップあたりの移動量
SP :約0.06秒
MONO, LP2 :約0.12秒
LP4 :約0.25秒

5

Complete

TOC

完了後、点灯

曲を分ける

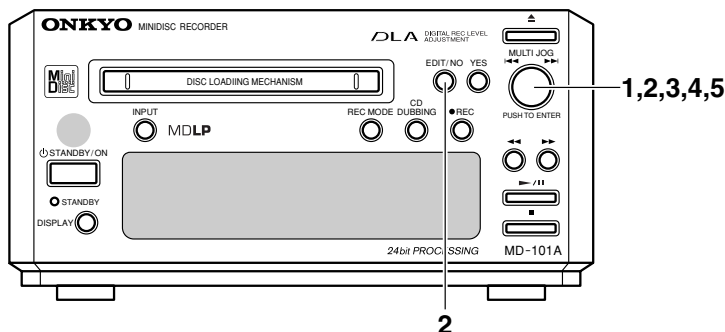
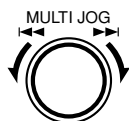
マルチジョグダイヤルを押すと、選んだ曲が分割されます。
ネームがついている曲をディバイド(分ける)すると前のトラックにネームが残り後ろのトラックにはネームはつきません。
分割が完了すると、"Complete"と表示されます。

- 分割した曲以降の曲番は、1つずつくり下がります。(たとえば、2曲目を2曲目と3曲目に分けると、3曲目が4曲目になり、4曲目が5曲目になります。)
- 曲の一部を消去するには、曲を分けてから消去してください。(消去の手順は、52、53ページをご覧ください。)

ご注意

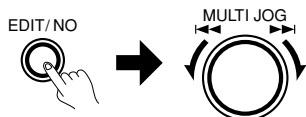
TOC点灯・点滅中は、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

■曲をつなぐ（Combine機能）

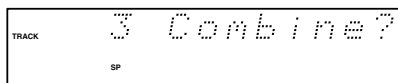
- 曲と曲をつないで1つの曲番にします。ただし、デジタル入力録音で録音した曲とアナログ入力録音で録音した曲はつなぐことができません。またCombineは同じ録音モードで録音した曲のみ可能で、異なる録音モードで録音した曲もつなぐことはできません。（たとえば、MONOモードで録音した曲とLP2モードで録音した曲をつなぐことはできません。）
- 停止中、一時停止中、再生中に操作します。

1

つなぐ曲番を選ぶ（1つ前の曲とつながる）

マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）を回して、つなぐ曲番を表示させます。

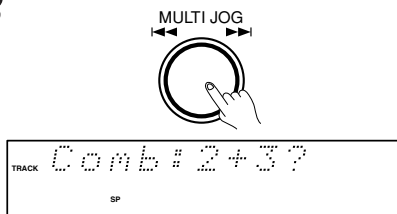
- 選んだ曲番の曲が、1つ前の曲とつながります。
- 両方の曲にネームがついている場合は、前の曲のネームが残ります。
- 前の曲のみネームがある場合は、前の曲のネームが残ります。
- 後方の曲のみネームがある場合は、ネームはなくなります。

2

TRACK 3 Combine?
SP

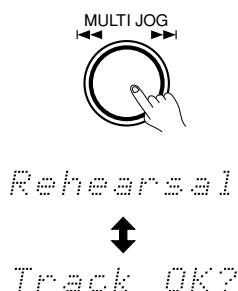
"Combine ?"と表示させる

エディット/ノーボタン（EDIT/NO）を押した後、マルチジョグダイヤルを回して"Combine ?"と表示させます。

Combineを中止するには

エディット/ノーボタンまたは、ストップボタン（■）を押します。

3

マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）を押す

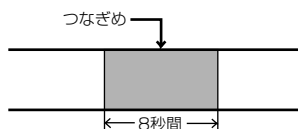
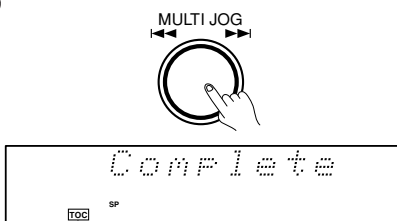
マルチジョグダイヤルを押すと、つなぐ曲番とその前の曲番が表示されます。

4

Rehearsal

Track OK?

つなぐ位置を確認する

マルチジョグダイヤルを押すと、"Rehearsal"と"Track OK?"が交互に表示され、つなぎ目の部分(8秒間)がくり返し再生されます。

5

完了後、点灯

曲の接続

曲をつなぐ

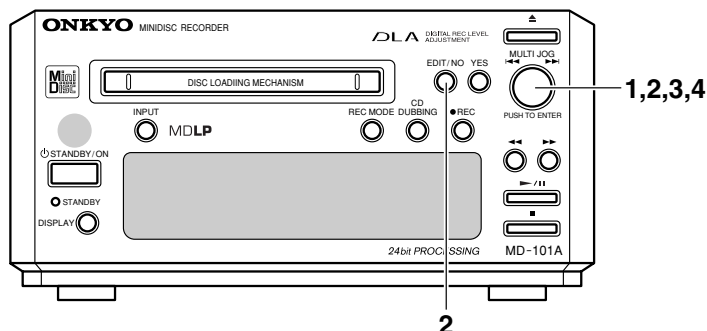
マルチジョグダイヤルを押すと、選んだ曲がつながります。
結合が完了すると、"Complete"と表示されます。
その後、再生が始まります。

結合した曲以降の曲番は、1つずつくり上がります。(たとえば、2曲目と3曲目をつなぐと、4曲目が3曲目になり、5曲目が4曲目になります。)

ご注意

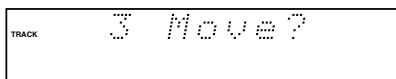
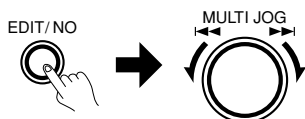
TOC点灯・点滅中は、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

■曲を移動する（Move機能）

- 聞きたい順番に曲を移動することができます。
- 停止中、一時停止中に操作します。

1

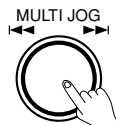
移動する曲番を選ぶ

マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）を回して、移動する曲番を表示させます。

2

"Move ?"と表示させる

エディット/ノーボタン（EDIT/NO）を押した後、マルチジョグダイヤルを回して"Move ?"と表示させます。

Moveを中止するには
エディット/ノーボタンまたは、ストップボタン（■）を押します。

3

TRACK Move:3→1?

マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）を押す

マルチジョグダイヤルを押すと、移動する曲番と移動先の曲番が表示されます。

移動先を選ぶには
マルチジョグダイヤルを回して､移動先の曲番を選びます。

4

Complete

TOC

完了後、点灯

曲を移動する

マルチジョグダイヤルを押すと、移動が実行されて、"Complete"と表示されます。

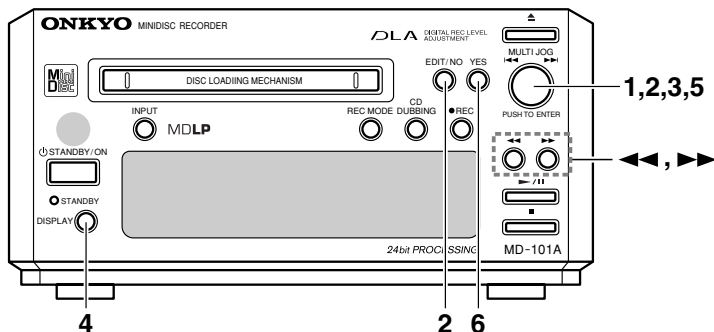
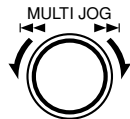
移動後の曲番は、移動した曲の曲番を基準に、改めて連続してつけ直されます。
（3曲目を１曲目に移動すると1曲目が2曲目になり、2曲目が3曲目になります。）

ご注意

TOC点灯・点滅中は、本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

ネームをつける

■曲名やディスク名をつける(Name In機能)

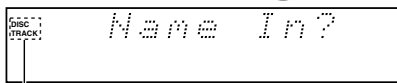
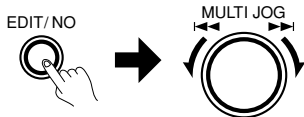
ディスク名をつけるには、停止状態で操作します。
曲名をつけるには、「再生中」「録音中」「停止中」「一時停止中」に操作します。
(再生中、録音中に曲番が変わると、入力中の文字はキャンセルされます。)

1

ディスク名をつける/曲名をつける

ディスク名をつけるには

そのまま手順*2*から操作します。

曲名をつけるには

マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)でネームをつける曲番を表示させます。(再生中、一時停止中、録音中にネームをつけるときは、現在表示されている曲番にネームがつきます。)

2

曲名をつけるときは、「TRACK」表示が、ディスク名をつけるときは、「DISC」表示が点灯します。

「Name In ?」と表示させる

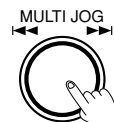
エディット/ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤルを回して"Name In?"と表示させます。

リモコン(RC-410MD)では

ネームボタン(NAME)を押します。

「Name In」を中止するには

エディット/ノーボタンまたは、ストップボタン(■)を押します。

3

マルチジョグダイヤルを押す

カーソルが点滅します。

カーソル点滅中に「Name In」を中止するには

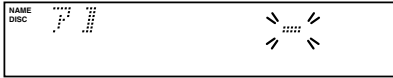
エディット/ノーボタンを押しながらイエスボタン(YES)を押すか、ストップボタン(■)を押します。

4

入力したい文字の種類を選ぶ

ディスプレイボタン（DISPLAY）を押すたびに、入力する文字の種類が次のようにくり返します。

アルファベット大文字(表示:A)
▼
アルファベット小文字(表示:a)
▼
英数字記号(表示:1)
▼
カタカナ(表示:ア)
▼
カンタンネーム(表示:♪)

一度に入力できる文字数は、文字の種類によりますが最高100文字までです。

リモコン(RC-410MD)では

ディスプレイボタン（DISPLAY）を押して表示を切り換えます。また、スクロールボタン（SCROLL）でも切り換えることができます。この場合は、アルファベット大文字→カンタンネーム→カタカナ→英数字記号→アルファベット小文字の順に切り換わります。

入力できる文字の種類

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
_ @ ` ＜ ＞ ＃ ＄ ％ ＆ ＊ ＝ ; : ＋ － ／ （ ）？ ！ ’ ” , . ␣(空白) (挿入)
ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ サ シ ス セ ソ タ チ ツ テ ト ナ ニ ヌ ネ ノ ハ ヒ フ ヘ ホ マ ミ
ム メ モ ヤ ユ ヨ ラ リ ル レ ロ ワ ヲ ン
ァ ィ ゥ ェ ォ ャ ュ ョ ッ ゛ ゜

カンタンネームについて

以下のようなネームが用意されています。文字を選ぶのと同じ要領で下記の中から選んでください。

5

リモコン(RC-410MD)

NAME DISC

ネームを入力する

マルチジョグダイヤル（MULTI JOG）を回して文字を選び、マルチジョグダイヤルを押して決定します。2文字目以降も続けてマルチジョグダイヤルで選びます。

文字の種類を変更して入力するには

手順***4***に戻って文字の種類を変更してから、マルチジョグダイヤルを回して文字を選び、マルチジョグダイヤルを押して決定します。

リモコン(RC-410MD)では

- 数字(1〜9、0は10で入力)、アルファベットの大文字と小文字、記号(ボタンの下に書かれているもの)が直接入力できます。
  リモコンの|◀◀、▶▶|ボタンを押して文字を選ぶこともできます。エンターボタン（ENTER）か▶▶ボタンで入力します。
- カタカナ入力するには、65ページのローマ字変換表にしたがって入力してください。

文字を修正するには：◀◀または▶▶ボタンを押して間違えた文字を点滅させ、改めて入力します。

文字を挿入するには：◀◀または▶▶ボタンを押して挿入する位置を点滅させます。
次にマルチジョグダイヤルを左へ回してHを点滅させ、そのまま押すとカーソルが点滅しますので改めて文字を入力します。

文字を削除するには：◀◀または▶▶ボタンを押して削除する文字を点滅させ、エディット／ノーボタン(EDIT/NO)またはリモコン(RC-410MD)のクリアボタン(CLEAR)を押します。

6

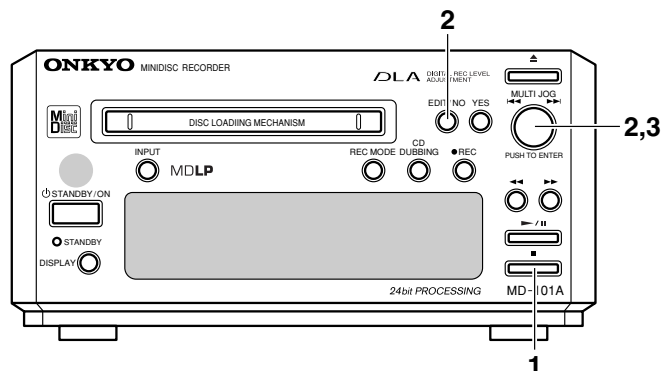
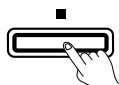
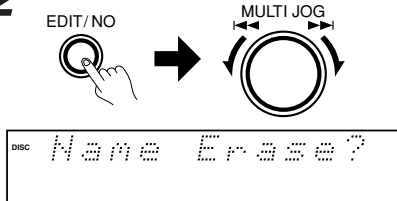
入力を終了する

イエスボタン(YES)を押します。

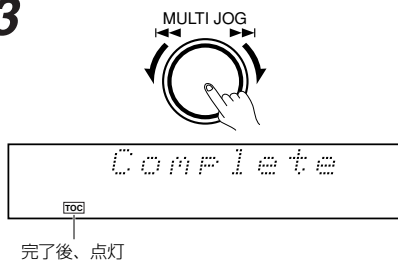
リモコン(RC-410MD)では
ネーム(NAME)ボタンを押します。

ご注意

イジェクトボタン(▲)や電源ボタン(STANDBY/ON)を押して、TOCが点滅しているときは、録音した内容をディスクに記録中です。この間は、電源プラグを抜いたり、本機を強くゆらしたりしないでください。正しく記録されないことがあります。

■すべての曲名とディスク名を消す(Name Erase機能)

1 ストップボタン(■)を押す

2 "Name Erase ?"と表示させる

エディット／ノーボタン(EDIT/NO)を押した後、マルチジョグダイヤル(MULTI JOG)を回して"Name Erase ?"と表示させます。

3 マルチジョグダイヤルを押す

すべての曲名とディスク名が消えます。

■リモコン(RC-410MD)でカタカナを入力するには

アルファベットの組み合わせで、ローマ字入力します。
アルファベットは小文字が表示されます。

ア	ア A	イ I	ウ U	エ E	オ O
カ	カ KA	キ KI	ク KU	ケ KE	コ KO
	キャ KYA	キィ KYI	キュ KYU	キェ KYE	キョ KYO
サ	サ SA	シ SI SHI	ス SU	セ SE	ソ SO
	シャ SYA SHA	シィ SYI	シュ SYU SHU	シェ SYE SHE	ショ SYO SHO
タ	タ TA	チ TI CHI	ツ TU TSU	テ TE	ト TO
	チャ TYA CYA CHA テャ THA	チィ TYI CYI ティ THI	チュ TYU CYU CHU テュ THU	チェ TYE CYE CHE テェ THE	チョ TYO CYO CHO テョ THO
ナ	ナ NA	ニ NI	ヌ NU	ネ NE	ノ NO
	ニャ NYA	ニィ NYI	ニュ NYU	ニェ NYE	ニョ NYO
ハ	ハ HA	ヒ HI	フ HU FU	ヘ HE	ホ HO
	ヒャ HYA ファ FA フャ FYA	ヒィ HYI フィ FI フィ FYI	ヒュ HYU フュ FYU	ヒェ HYE フェ FE フェ FYE	ヒョ HYO フォ FO フョ FYO
マ	マ MA	ミ MI	ム MU	メ ME	モ MO
	ミャ MYA	ミィ MYI	ミュ MYU	ミェ MYE	ミョ MYO
ヤ	ヤ YA	イ YI	ユ YU	イェ YE	ヨ YO
ラ	ラ RA	リ RI	ル RU	レ RE	ロ RO
	リャ RYA	リィ RYI	リュ RYU	リェ RYE	リョ RYO

ワ	ワ WA	ウィ WI	ウ WU	ウェ WE	ヲ WO
ン	ン NN	ン* N			
ガ	ガ GA	ギ GI	グ GU	ゲ GE	ゴ GO
	ギャ GYA	ギィ GYI	ギュ GYU	ギェ GYE	ギョ GYO
ザ	ザ ZA	ジ ZI JI	ズ ZU	ゼ ZE	ゾ ZO
	ジャ JYA ZYA JA	ジィ JYI ZYI	ジュ JYU ZYU JU	ジェ JYE ZYE JE	ジョ JYO ZYO JO
ダ	ダ DA	ヂ DI	ヅ DU	デ DE	ド DO
	ヂャ DYA デャ DHA	ヂィ DYI ディ DHI	ヂュ DYU デュ DHU	ヂェ DYE デェ DHE	ヂョ DYO デョ DHO
バ	バ BA	ビ BI	ブ BU	ベ BE	ボ BO
	ビャ BYA	ビィ BYI	ビュ BYU	ビェ BYE	ビョ BYO
パ	パ PA	ピ PI	プ PU	ペ PE	ポ PO
	ピャ PYA	ピィ PYI	ピュ PYU	ピェ PYE	ピョ PYO
ヴァ	ヴァ VA	ヴィ VI	ヴ VU	ヴェ VE	ヴォ VO
ッ	ッ LTU	ッ XTU			
	後ろに子音を2つ続けます [例] だった…DATTA				
ャ	ャ LYA XYA	ィ LYI XYI	ュ LYU XYU	ェ LYE XYE	ョ LYO XYO
ァ	ァ LA XA	ィ LI XI	ゥ LU XU	ェ LE XE	ォ LO XO

* "ン" はNに続いて子音(K、T、P、S、Z、J、D、など)がくれば "ン" となります。

メッセージ一覧

表示部に表示される主なメッセージについて各操作手順で説明していますが、使用状況によっては、それ以外に下記メッセージが表示されることがあります。

メッセージ	解説
Auto Space	A. SpaceをONに設定しているとき、曲と曲の間に表示される。
Blank Disc	購入したばかりの録音用ディスク、または曲もディスク名も記録されていない録音用ディスクが入っている。
Cannot Copy	コピー禁止のものをデジタル入力録音しようとした。 デジタル入力録音できない状態になっている(「デジタル入力録音時のルールについて」69ページ参照)。
Cannot Edit	MEMORY, RANDOM演奏のモードで編集しようとした。再生専用ディスクで編集しようとした。
Cannot Rec	再生専用ディスクに録音しようとした。録音用のディスクに録音してください。
CD Dub Fail	C D ダビングを起動できなかった。(RI ケーブル、オーディオ用ピンコードが接続されていない。アンプ、C D プレーヤーの電源が入っていない。入力がDigital In 1になっていない。)接続を確認してください。
Complete	編集が完了した。
D. In Unlock	デジタル入力に接続されていない。デジタル接続を確認してください。
Disc Error	異常な(損傷している、TOCが読めない)ディスクが入っている。
Disc Full	ディスクの録音可能部分がないため、録音できない(「システム上の制約について」68ページ参照)。
Error	カナネーム入力時にアルファベットをカナ変換できなかった。
Full	ネーム入力中に曲名とディスク名が最大値に達した。
Impossible	編集できなかった。
Mecha Error	メカに異常が発生した。
Memory Full	25曲を越えてメモリーしようとした。
Music Scan	ミュージックスキャンを開始した。
Name Full	1枚のディスクに対して入力可能な文字数が最大値に達した。
No Change	ネーム入力で変更がなかった。
No Disc	ディスクが入っていない。
No Track	曲は入っていないが、ディスク名だけが付いているディスクが入っている。
Over	ポーズ中(一時停止中)に早送りボタンを押してディスクの最後まで達した。

Protected	ディスクが誤消去防止状態になっている。誤消去防止ツマミを閉じてください。
Retry Error	録音中、振動やディスクに傷がいくつもあったため、記録し直しが連続し正常に記録できない。
Signal Wait	シグナルウェイト状態になった。
Synchro Rec	シンクロ録音を開始した。
TOC Reading	ディスクへの読み込み中
TOC Writing	ディスクへの書き込み中
TOC Error	録音や編集内容の記録に失敗した。TOCに異常がある。

システム上の制約について

MD(ミニディスク)システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行われます。そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

● **最大録音可能時間に達していなくても、「Disc Full」が表示される。**
MDシステムでは、録音モードや時間に関係なく、曲数がいっぱいになると「Disc Full」の表示が出ます。256曲以上は録音できません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消すか、2枚のディスクに分けて録音してください。

● **曲数にも録音時間にも余裕があるのに、「Disc Full」が表示される。**
編集操作を頻繁に行うと、時間や曲数に関係なく「Disc Full」の表示が出ます。

● **ディスクへの録音のしかたによっては短い曲を何曲消してもディスクの残り時間が増えない。**

● **曲をつなぐことができない場合がある。**
編集を行ってできた曲は、つなぐことができない場合があります。

● **ディスクの状態や録音のしかたによっては、録音可能な残り時間が録音した時間以上に減ることがある。**

● **編集でできた曲でサーチを行うと、音が途切れることがある。**

● **曲番が正確につかないことがある。**
録音時に不要な曲ができた場合は、その曲を消去してください。
CDを録音するとき、CDの録音内容によって、短い曲ができる場合があります。
また、レベルシンクオンで自動的に曲番をつける場合、録音するものの内容によっては、曲番が正確につかない場合があります。

● **「TOC Reading」の表示がなかなか消えない。**
一度も使用していない録音用ディスクを入れると、通常より「TOC Reading」表示が長く表示されます。

デジタル入力録音時のルールについて

シリアルコピーマネージメントシステム

デジタル入力で録音したMDをさらにデジタル入力録音することはできません。本機は、シリアルコピーマネージメントシステムの規格に準拠したデジタルオーディオ機器です。「シリアルコピーマネージメントシステム」は、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」するというデジタル信号どうしのコピーを「1回だけ」と規制したもので、3つの原則があります。

原則1
コンパクトディスク(CD)またはデジタルオーディオテープ(DAT)、ミニディスク(MD)ソフトから、MDへ「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できます。
ただし、1度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したものを、他のMDへ、「デジタル信号のままデジタル入力録音」できません。

原則2
アナログレコードやFM放送などを本機で録音したMDから、他のMDへ、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」することができます。ただし、1度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したMDから、他のMDへ、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できません。

MDレコーダーどうしをアナログ入出力端子につないだときは、何回でも録音できます。

原則3
DATデッキまたは32kHz、48kHzのサンプリング周波数に対応するMDレコーダーの場合、衛星放送のデジタル音声信号も、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できます。
この場合は、2回目も「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できます。ただし、BSチューナー（衛星放送受信機）によっては、2回目ができないことがあります。

故障？と思ったら

本機が正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。またシステムの接続は確実に行ってください。これらの処理をしても直らないとき、これ以外の症状のときは、電源コードをコンセントから抜いて「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（MD-101A）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

症状	原因	処置
電源が入らない	電源プラグの差し込みが不完全になっている。	電源プラグを電源コンセントに確実に差し込み直してください。（16ページ参照）
操作を受けつけない	ディスクが汚れている、または損傷している。（「Disc Error」表示が出る。）	新しいディスクと取り替えてください。
再生できない	結露（内部に水滴が付着）している。	ディスクを取り出して、そのまま数時間置いてください。
	ディスクを逆向きに差し込もうとしている。	ディスクの矢印の向きに合わせて差し込んでください。
	何も録音されていないディスクが入っている。（「Blank Disc」表示が出る。）	録音されているディスクと取り替えてください。
録音できない	ディスクが誤消去防止状態になっている。（「Protected」表示が出る。）	ディスクの誤消去防止ツマミをもどして孔を閉じます。
	音源と正しく接続されていない。	接続し直してください。
	録音レベルが小さすぎる。	録音レベルを調節します。（39ページ参照）
	再生専用ディスクが入っている。（「Cannot Rec」表示が出る。）	録音用ディスクと取り替えます。
	ディスクの残り時間がない。	残り時間が充分ある録音用ディスクと取り替えます。または、不要な曲を消してください。
	オーディオ用光デジタルケーブルが接続されていない。（「D. In unlock」表示が出る。）	オーディオ用光デジタルケーブルを正しく接続してください。またはアナログ入力にしてください。
AM放送録音時に規則的な雑音が入る	AM室内アンテナを本機のすぐそばに置いている。	本機からAM室内アンテナを離してください。

雑音が多い	テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	テレビなどから充分離して置いてください。
ネーム入力ができない	ディスクが誤消去防止状態になっている。(「Protected」表示が出る。)	ディスクの誤消去防止ツマミをもどして孔を閉じます。
	再生専用ディスクが入っている。(「Cannot Rec」表示が出る。)	録音用ディスクと取り替えます。
システム動作しない	接続が不完全である。	各コードの接続を確認してください。また、RI端子の接続だけではシステムとして働きません。各機器のオーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
—	—	上のどの処置でも正常に動作しない場合は、電源プラグをはずし、再度電源プラグを入れ直してください。 それでも正常に動作しない場合は電源プラグを入れた状態でストップボタン(■)を約5秒以上押してから、通常の操作をしてください。

ご注意　製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をするときには、あらかじめ正しく録音できることをご確認の上、録音を行ってください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5秒後に改めて電源プラグを入れてください。

主な仕様

形式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
記録方式	磁界変調オーバーライト方式
再生読み取り方式	非接触光学読み取り
録音再生時間	最大320分 LP4(80分ディスク使用時)
回転数	約400 rpm ~ 900 rpm (CLV)
サンプリング周波数	44.1 kHz
チャンネル数	2 ch. (ステレオ)
エラー訂正方式	クロスインターリーブ・リードソロモンコード
周波数特性	10 Hz ~ 20 kHz
SN比	100 dB以上 (再生時)
出力レベル	2.0 Vrms
電源	AC100V 50/60 Hz
消費電力	13W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行き)	155 x 76 x 281 mm
質量	2.3 kg

性能および外観は、性能向上のため予告なしに変更することがあります。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、ただちに電源プラグを抜いてから、修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは
「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(MD-101A)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しく、お買い上げ店または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入された時にご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日　：　　　年　　月　　日
ご購入店名　：
Tel.　　(　　)
メモ：

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター 受付 9:30～17:30 （土日祝、弊社休日除く） **■カタログのご請求、製品についてのご相談** ＊e-mail： ホームシアター/オーディオ製品→customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品 →mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL：ナビダイヤル0570-01-8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または072-831-8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX：072-831-8124 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com

修 理 窓 口 修理のご依頼は取扱説明書の「故障？と思ったら」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

パソコン用スピーカー以外のマルチメディア製品は、

マルチメディアサポートセンター　TEL.072-831-7305　FAX.072-831-8124
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

ホームシアター/オーディオ製品とパソコン用スピーカーは、

札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北28条ビル
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571　FAX　022-257-7330 〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル 1F
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034　埼玉県さいたま市土呂町2-29-2　高安ビル 1F
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312 〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013　大阪市港区福崎2丁目1番地49号
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

2001年6月現在　お客様相談窓口、修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

F -1